

消費生活モニターアンケート調査報告

メインテーマ:「なりすましメールやSMSによるフィッシング」

2023年11月

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	なりすましメールやSMSによるフィッシングについて	
問1	インターネットの利用状況	2
問2	パスワードの管理状況	3
問3	パスワードの使い分け状況	4
問4	パスワードの変更状況	5
問5	フィッシングの認知度	6
問6	なりすましメールやSMSの受信状況	7
問7	受信したなりすましメールやSMSの種類	8
問8	なりすましメールやSMSを見分ける方法	9
問9	なりすましメールやSMSへの対応	10
問10	フィッシング被害防止に向けて事業者及び行政に期待すること	11
2	消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について	
問11	消費者教育・啓発、情報提供事業の認知度	12
問12	消費者教育・啓発、情報提供事業の効果	13
問13	消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用	14
問14	「あいち暮らしっく」等に掲載してほしい情報・分野	15
問15	「あいち暮らしWEB」及び「エシカル×あいち」の閲覧項目	16
問16	消費者問題に関する授業や講座の参加経験	18
問17	消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマ	19
問18	高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	20
問19	若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	21
問20	消費生活相談窓口の活用にも有効な対策	22
問21	エシカル消費の認知度、普段取り組んでいるエシカル消費	23
問22	エシカル消費の認知度を高めるために有効だと思う施策	24
3	食の安全・安心について	
問23	食の安全に関する取組への関心度	25
問24	食の安全への影響で特に不安に思っているもの	26
問25	食品を購入するときに特に注意するもの	27
問26	愛知県の食品衛生を向上させるための取組	28
問27	アニサキスによる食中毒について	29
問28	カンピロバクター食中毒について	30
問29	食物アレルギーの食品表示について	31
問30	ゲノム編集技術応用食品への関心について	32
問31	食の安全・安心に関する情報発信で特に関心を持っているもの	33
問32	食の安全・安心に関する意見・要望等	34

4 食生活について

問 33	無駄や廃棄の少ない食事づくりについて	35
問 34	郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について	36
問 35	栄養バランスのとれた食事について	37
問 36	野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について	38
問 37	食品を購入する際の産地について	39

I 調査の概要

1 調査の目的

情報通信技術の発達やスマートフォンの急速な普及により、インターネット通販、オンライン決済の利用が増加しています。

それに伴い、昨年のクレジットカード不正利用の被害額は過去最高となっており、その原因の一つとして、なりすましメールやSMS（携帯電話のショートメッセージ）から偽のウェブサイトへ誘導し、クレジットカード番号やID、パスワードなどを盗み取る「フィッシング」の増加があります。

このアンケート調査は、「なりすましメールやSMSによるフィッシング」をメインテーマとし、そのほか、「消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業」、「食の安全安心」及び「食生活」について、消費者の意識、認知度、意向などを把握し、今後の施策の参考とするものです。

2 調査の実施時期

2023年7月13日から8月21日まで（郵送による）

3 調査対象者

愛知県消費生活モニター^(※) 145名（回答者数126名 回収率 86.9%）

4 回答者の性別・年齢

(1) 性別 女性：68名（54.0%）、男性：58名（46.0%）

(2) 年代別 10歳代：1名（0.8%）、20歳代：5名（4.0%）、30歳代：10名（7.9%）、
40歳代：19名（15.1%）、50歳代：35名（27.8%）、60歳代：35名（27.8%）、
70歳代：18名（14.3%）、80歳以上：3名（2.4%）

(注1) 調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(注2) 調査結果中の「有効回答者数」は、「調査対象者」から「未提出者」「無回答」「無効回答」を除いた数です。

※ 愛知県消費生活モニター：愛知県からの依頼により、危険と思われる商品、不当な表示、悪質商法などの観察や、県への情報提供を行うほか、身近な方への消費生活に関する情報の提供等を行っています。

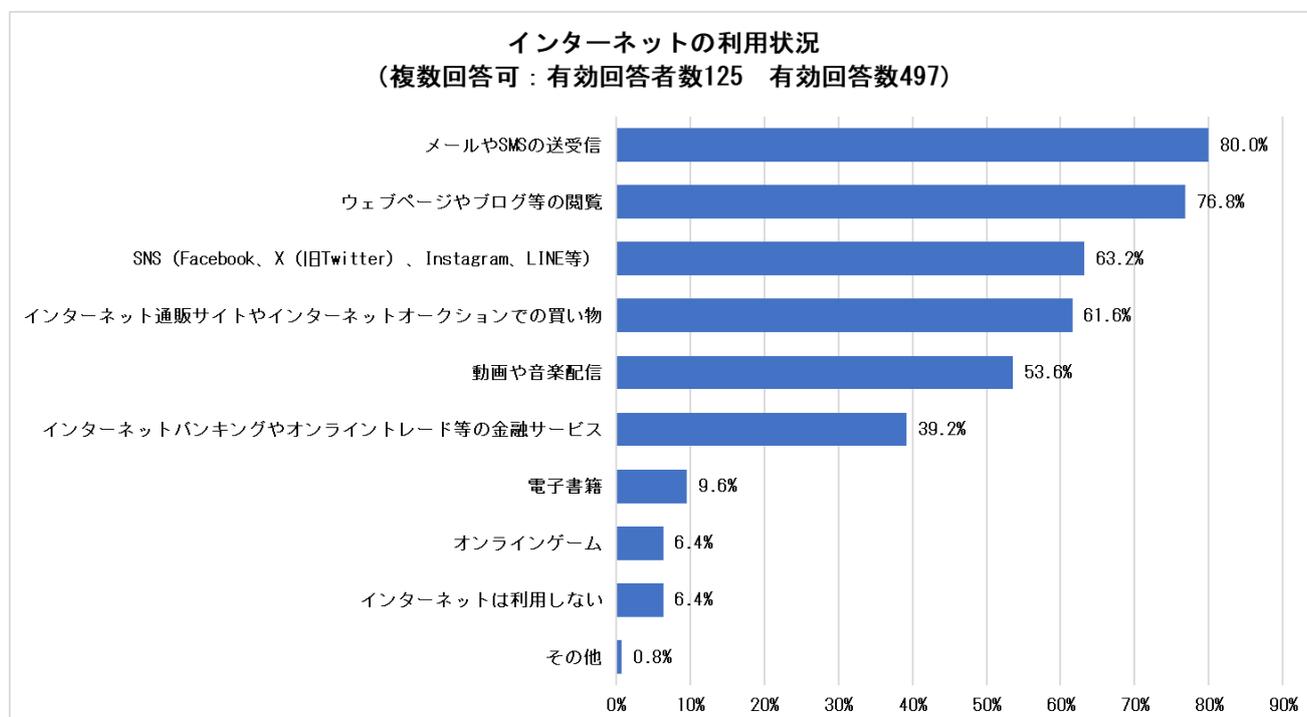
II 調査結果

1 なりすましメールやSMSによるフィッシングについて

問1 インターネットを利用する際、どのようなサービスをよく利用していますか。(複数回答可)

<回答結果>

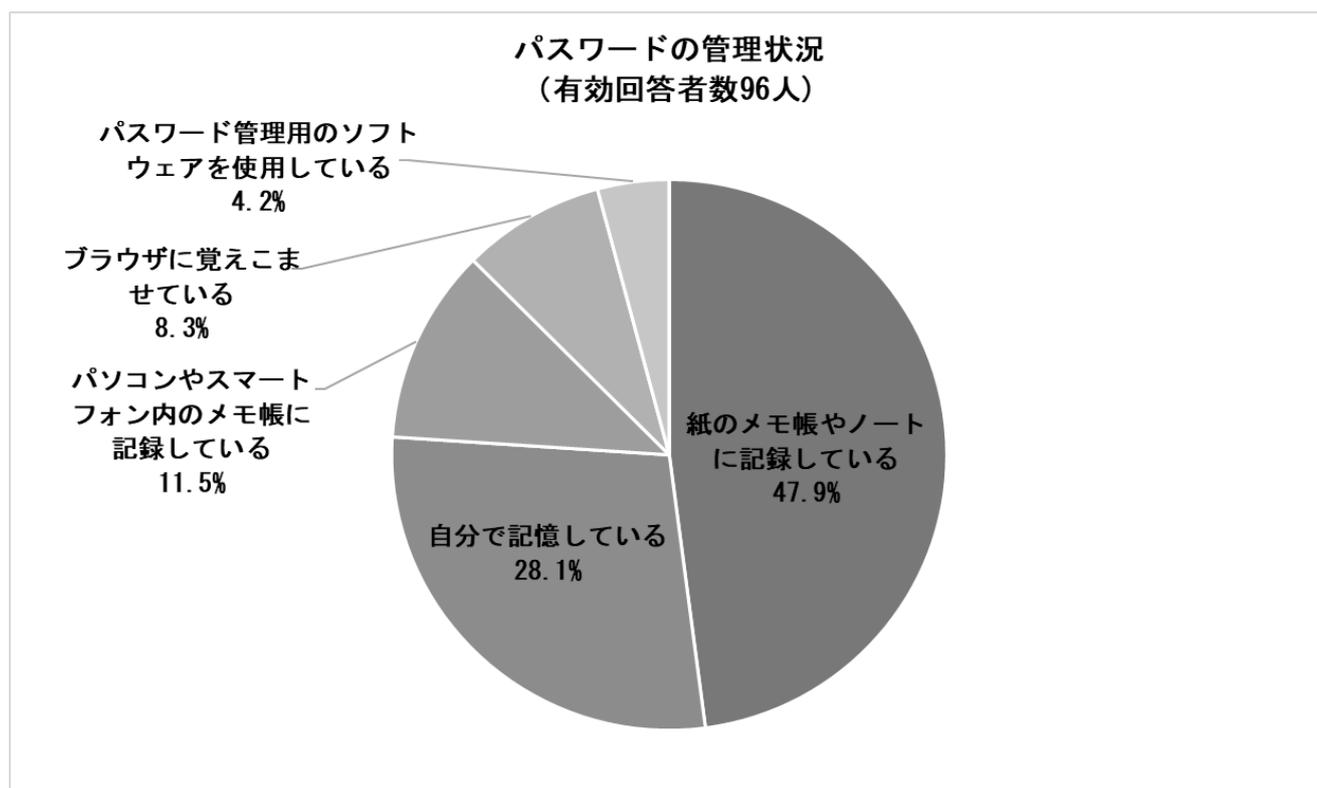
インターネットを利用する際、よく利用するサービスについて、「メールやSMSの送受信」が80.0%で最も多く、次いで「ウェブページやブログ等の閲覧」が76.8%、「SNS (Facebook、X (旧 Twitter)、Instagram、LINE等)」が63.2%、「インターネット通販サイトやインターネットオークションでの買い物」が61.6%、「動画や音楽配信」が53.6%の順であった。



問2 インターネットサービスを利用する際にパスワードは、どのようにして管理していますか。
(一つ選択)

<回答結果>

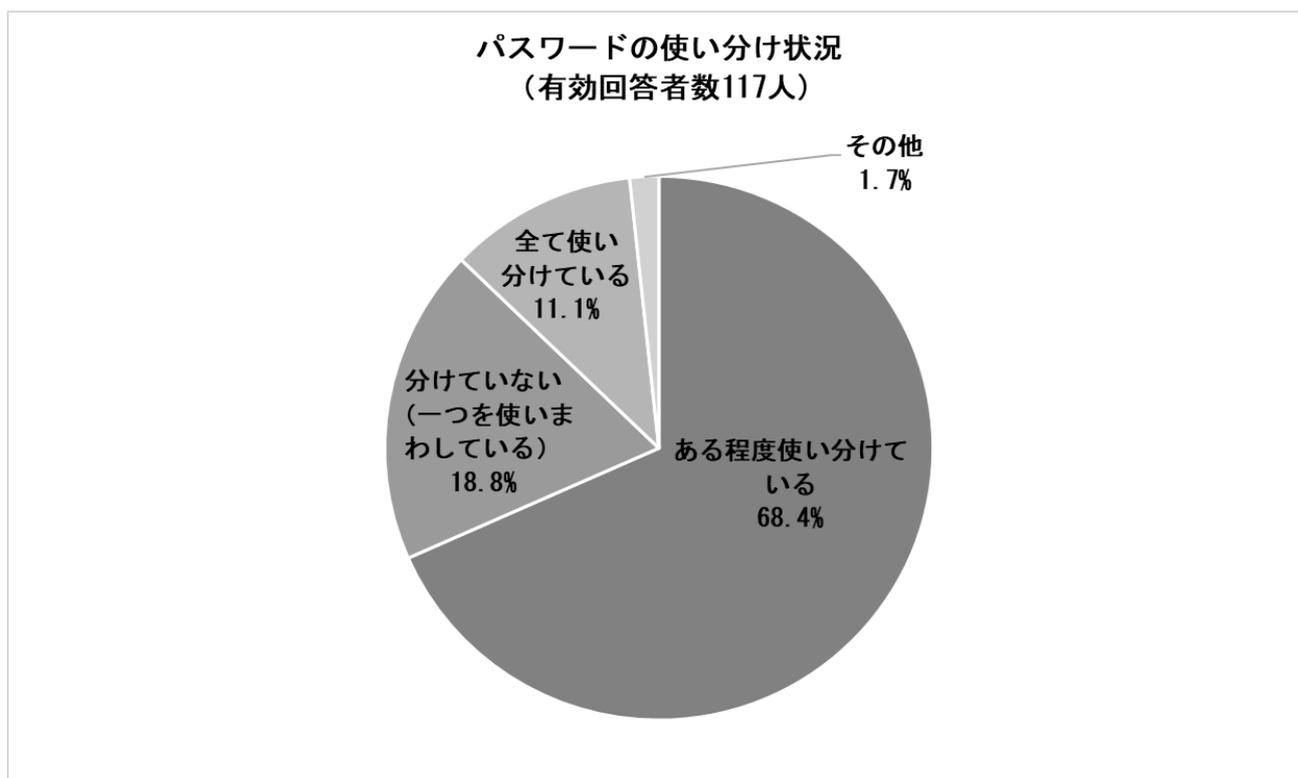
インターネットサービスを利用する際のパスワード管理について、「紙のメモ帳やノートに記録している」が47.9%で最も多く、次いで「自分で記憶している」が28.1%、「パソコンやスマートフォン内のメモ帳に記録している」が11.5%、「ブラウザに覚えこませている」が8.3%、「パスワード管理用のソフトウェアを使用している」が4.2%の順であった。



問3 パスワードはインターネットサービスによって使い分けていますか。(一つ選択)

<回答結果>

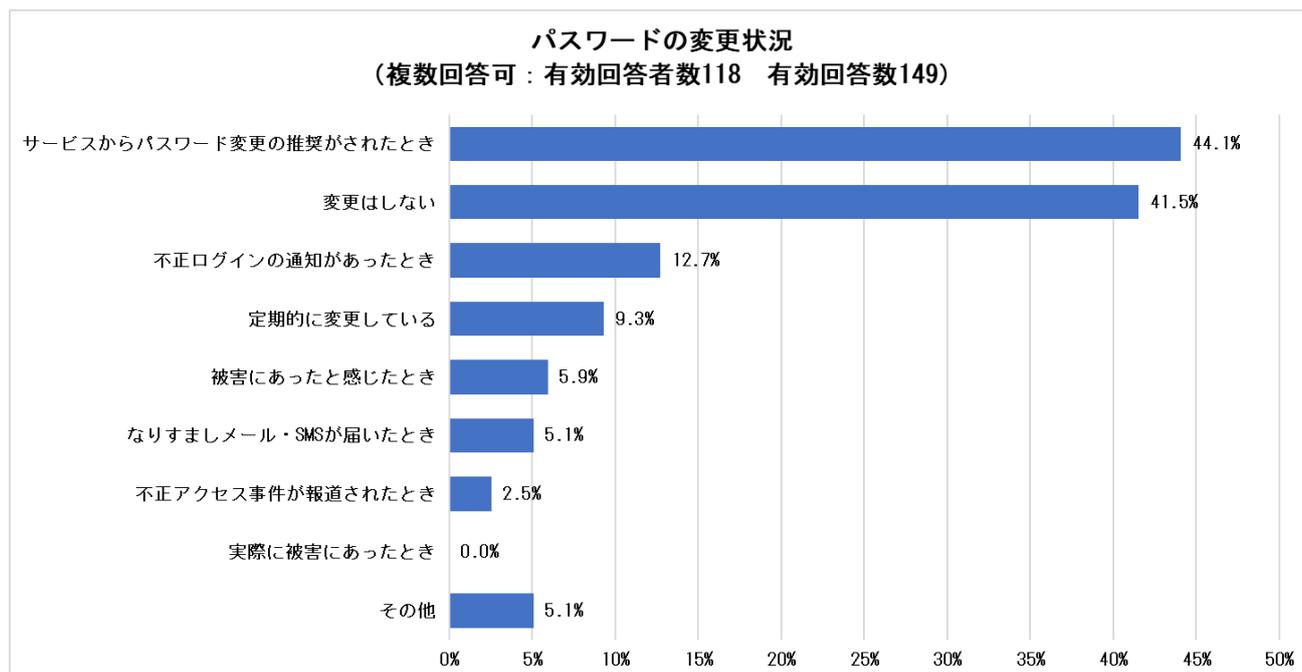
パスワードの使い分けについて、「ある程度使い分けている」が68.4%で最も多く、次いで「分けていない(一つを使いまわしている)」が18.8%、「全て使い分けている」が11.1%の順であった。



問4 パスワードの変更は、こういったときに行いますか。(複数回答可)

<回答結果>

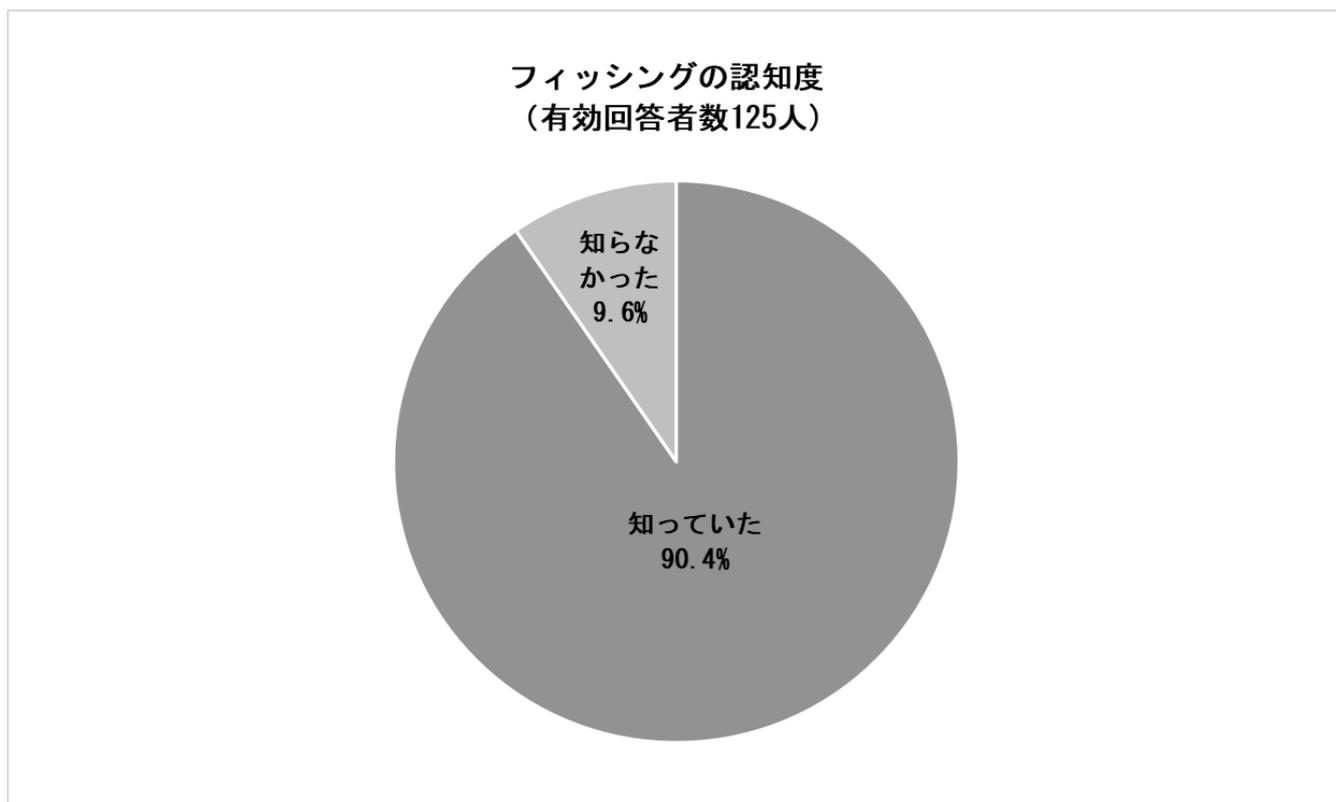
パスワードの変更について、「サービスからパスワード変更の推奨がされたとき」が44.1%で最も多く、次いで「変更はしない」が41.5%、「不正ログインの通知があったとき」が12.7%、「定期的に変更している」が9.3%の順であった。



問5 実在する企業を装った偽のメールを送り、メールの受信者に偽のウェブサイトアクセスするように仕向け、個人情報を騙し取ることを「フィッシング」といいます。
あなたは「フィッシング」という言葉を知っていましたか。(一つ選択)

<回答結果>

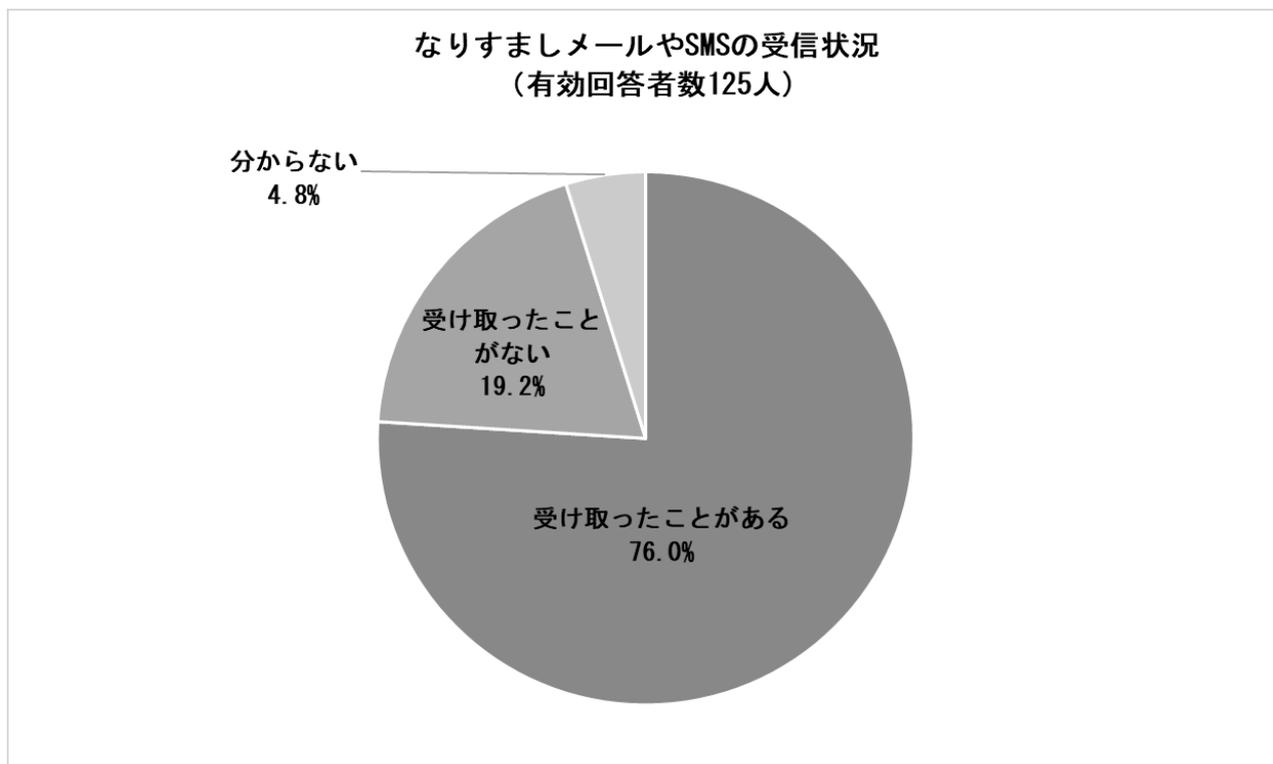
「フィッシング」という言葉について、「知っていた」が90.4%で、「知らなかった」が9.6%であった。



問6 フィッシングと考えられるなりすましメールやSMS（携帯電話のショートメッセージ）を受け取ったことがありますか。（一つ選択）

<回答結果>

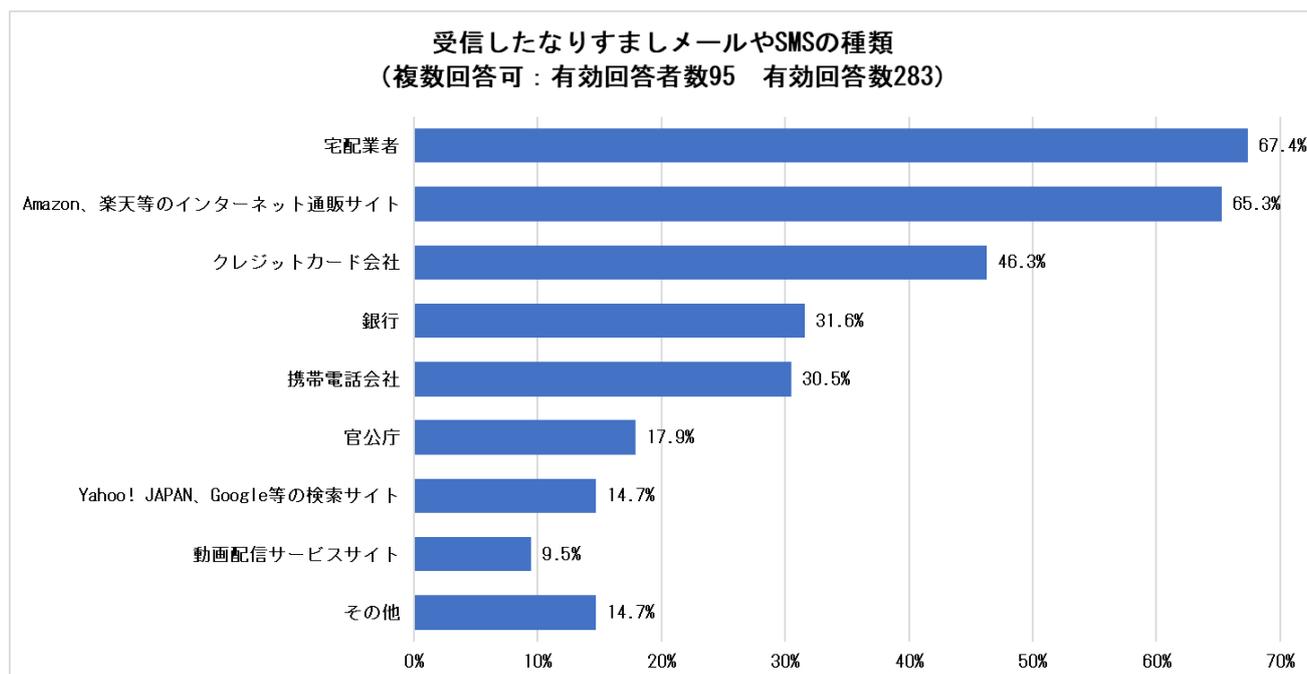
フィッシングと考えられるなりすましメールやSMSについて、「受け取ったことがある」が76.0%で最も多く、次いで「受け取ったことがない」が19.2%、「分からない」が4.8%の順であった。



問7 それは何になりすましたメール・SMSでしたか。(複数回答可)

<回答結果>

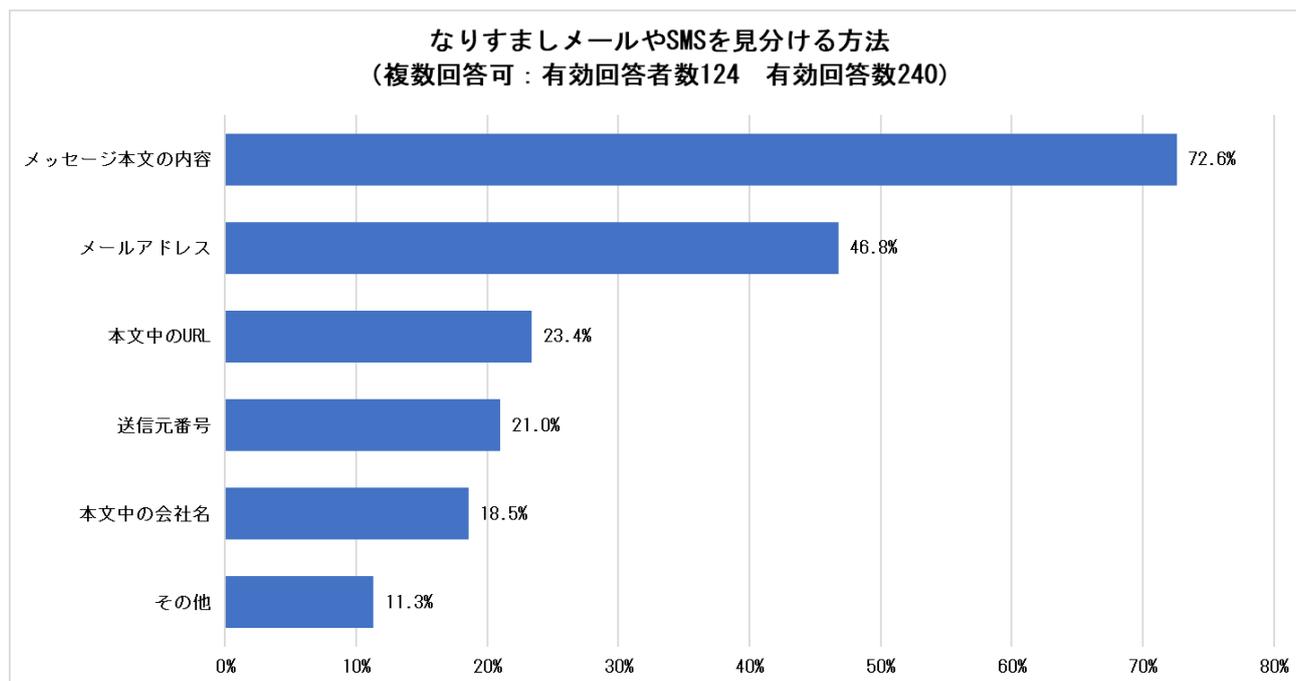
問6で「受け取ったことがある」と回答した人について、なりすましたメール・SMSの種類は、「宅配業者」が67.4%で最も多く、次いで「Amazon、楽天等のインターネット通販サイト」が65.3%、「クレジットカード会社」が46.3%の順であった。



問8 正規のメール・SMS と、なりすましのメール・SMS を見分ける場合、何で判断しますか。(複数回答可)

<回答結果>

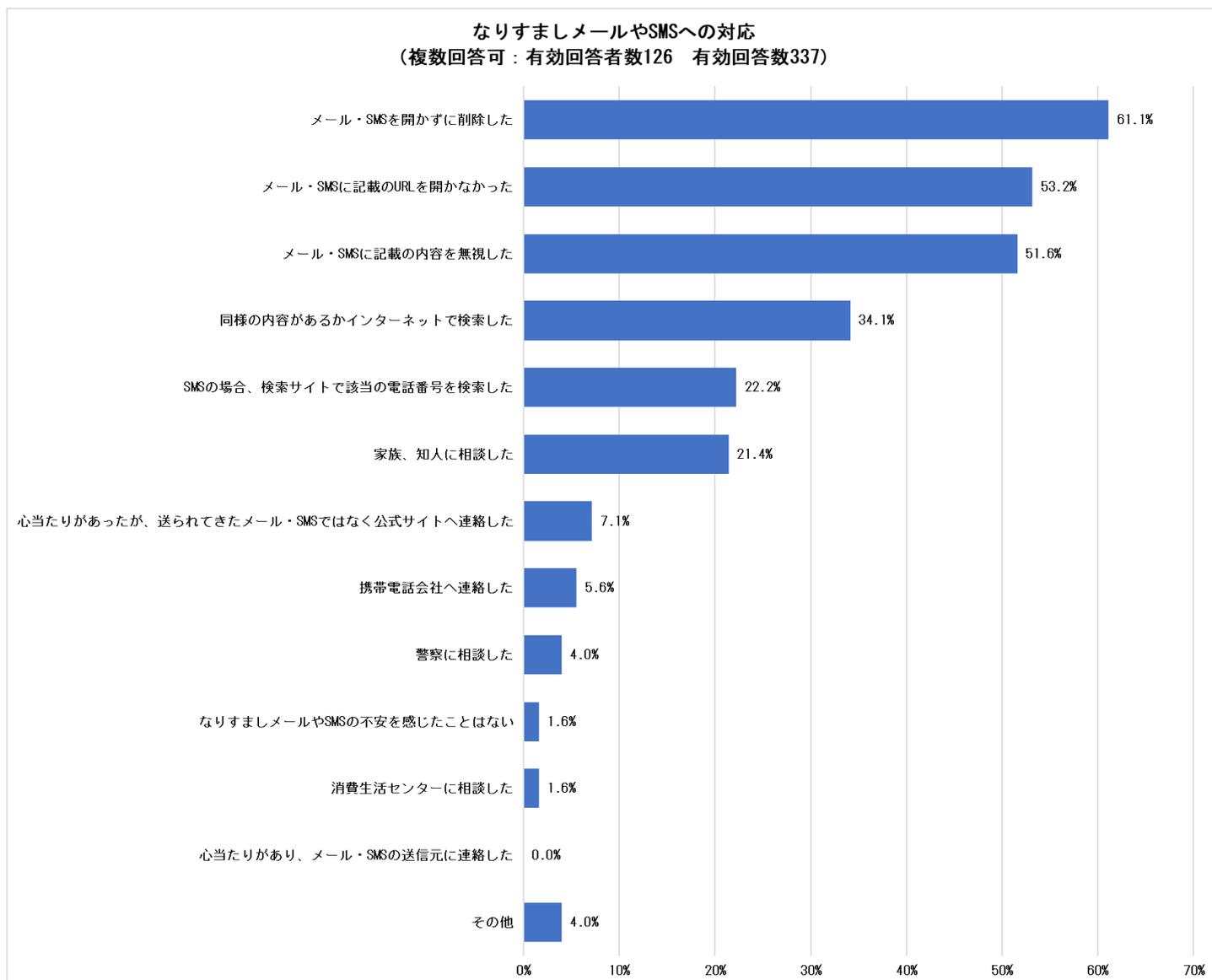
なりすましのメール・SMS を見分ける方法については、「メッセージ本文の内容」が 72.6%で最も多く、次いで「メールアドレス」が 46.8%、「本文中の URL」が 23.4%の順であった。



問9 なりすましメールやSMSに不安を感じたとき、どのような行動をとりましたか。(複数回答可)

<回答結果>

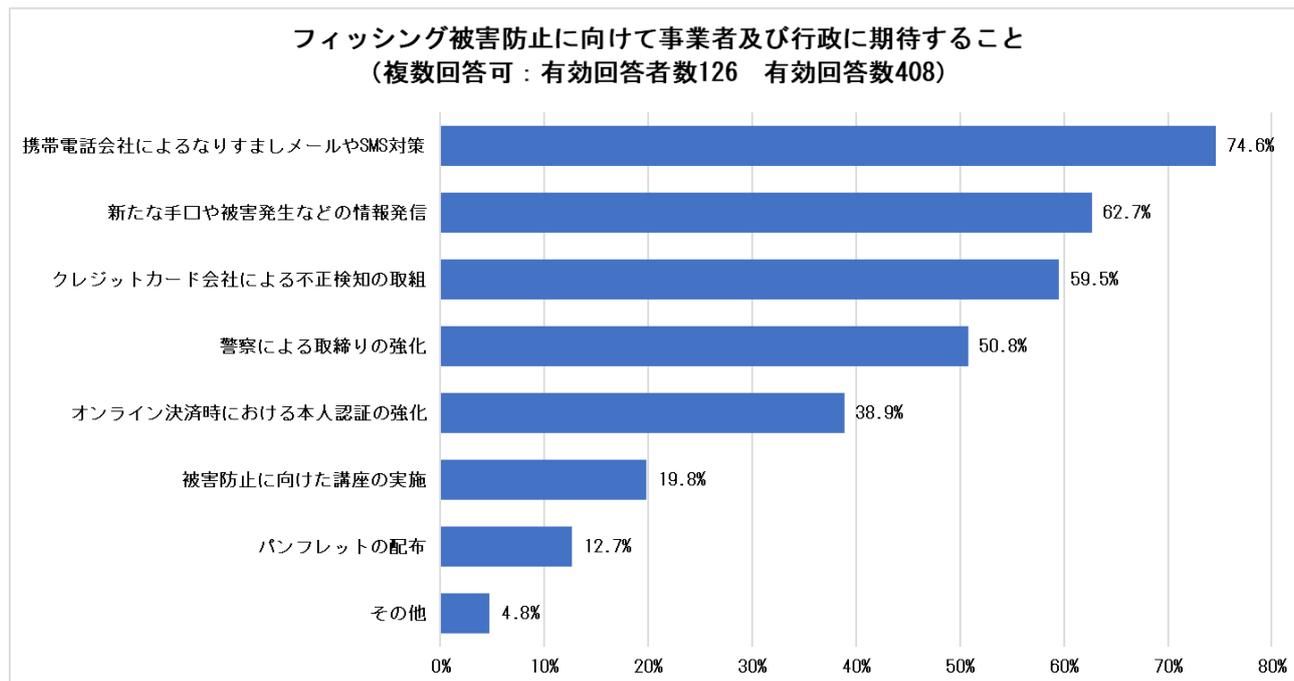
なりすましメールやSMSへの対応については、「メール・SMSを開かずに削除した」が61.1%で最も多く、次いで「メール・SMSに記載のURLを開かなかった」が53.2%、「メール・SMSに記載の内容を無視した」が51.6%の順であった。



問 10 なりすましメールや SMS によるフィッシング被害防止に向けて事業者及び行政に期待することはありますか。(複数回答可)

<回答結果>

事業者及び行政に期待することについては、「携帯電話会社によるなりすましメールや SMS 対策」が 74.6%で最も多く、次いで「新たな手口や被害発生などの情報発信」が 62.7%、「クレジットカード会社による不正検知の取組」が 59.5%の順であった。

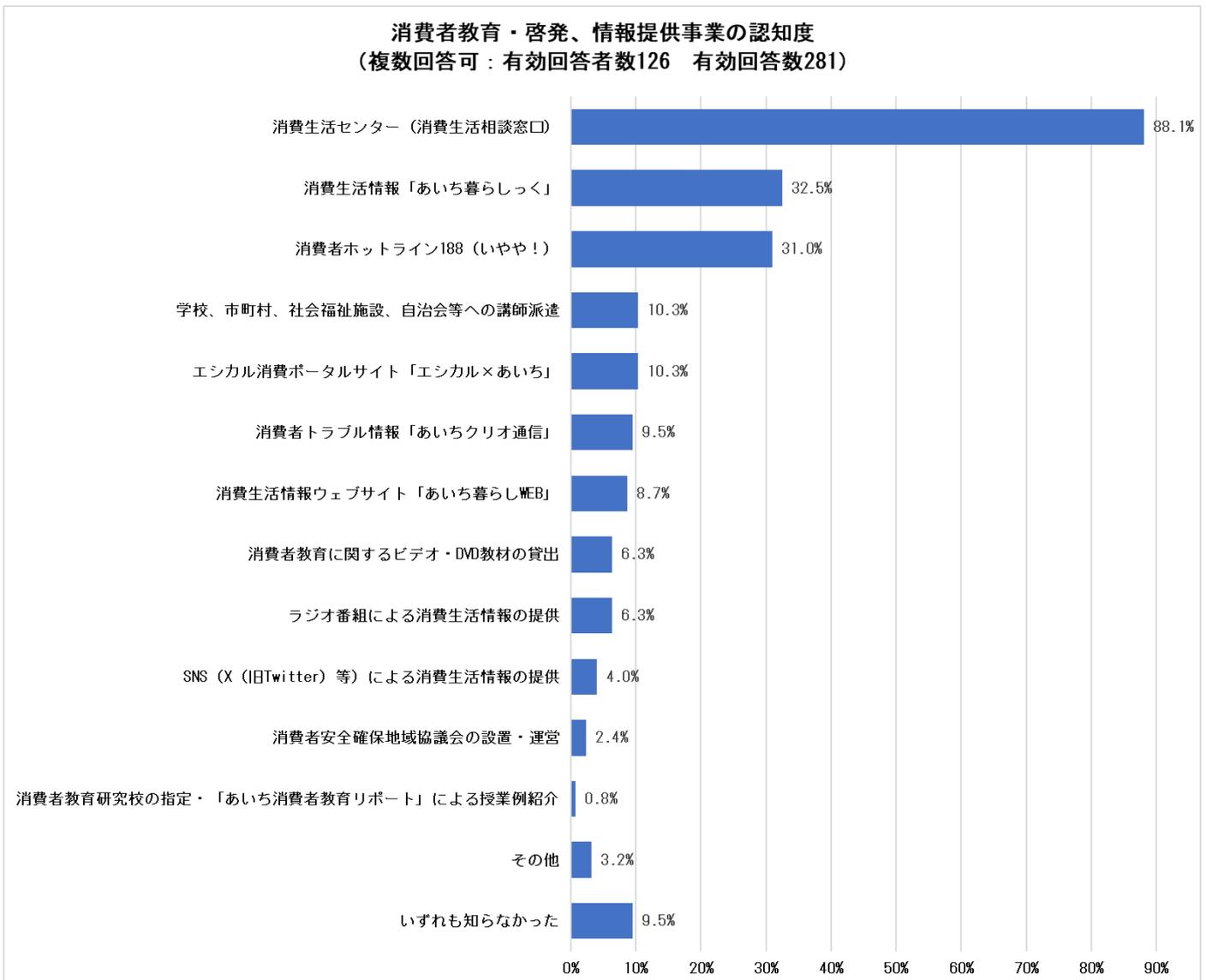


2 消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について

問 11 消費生活センターの設置や、県（県民生活課）が行っている定例の消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活モニターになる以前から知っていたものはありますか。知っていたものを回答してください。（複数回答可）

<回答結果>

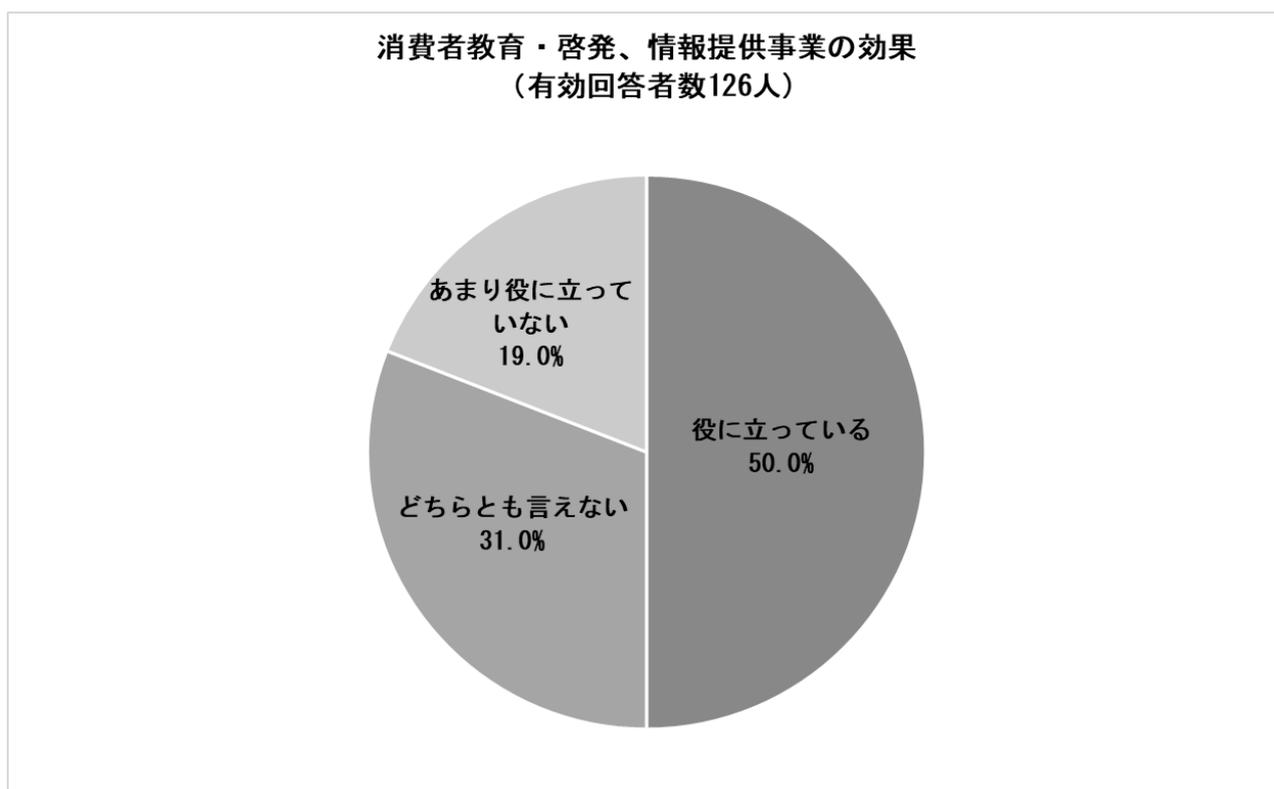
消費者教育・啓発、情報提供事業について知っていたものは、「消費生活センター(消費生活相談窓口)」が 88.1%で最も多く、次いで「消費生活情報『あいち暮らしっく』」が 32.5%、「消費者ホットライン 188 (いやや!）」が 31.0%の順であった。



問 12 県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活の安定や向上に役立っていると思いますか。(一つ選択)

<回答結果>

県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業については、「役に立っている」が 50.0%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が 31.0%、「あまり役に立っていない」が 19.0%の順であった。



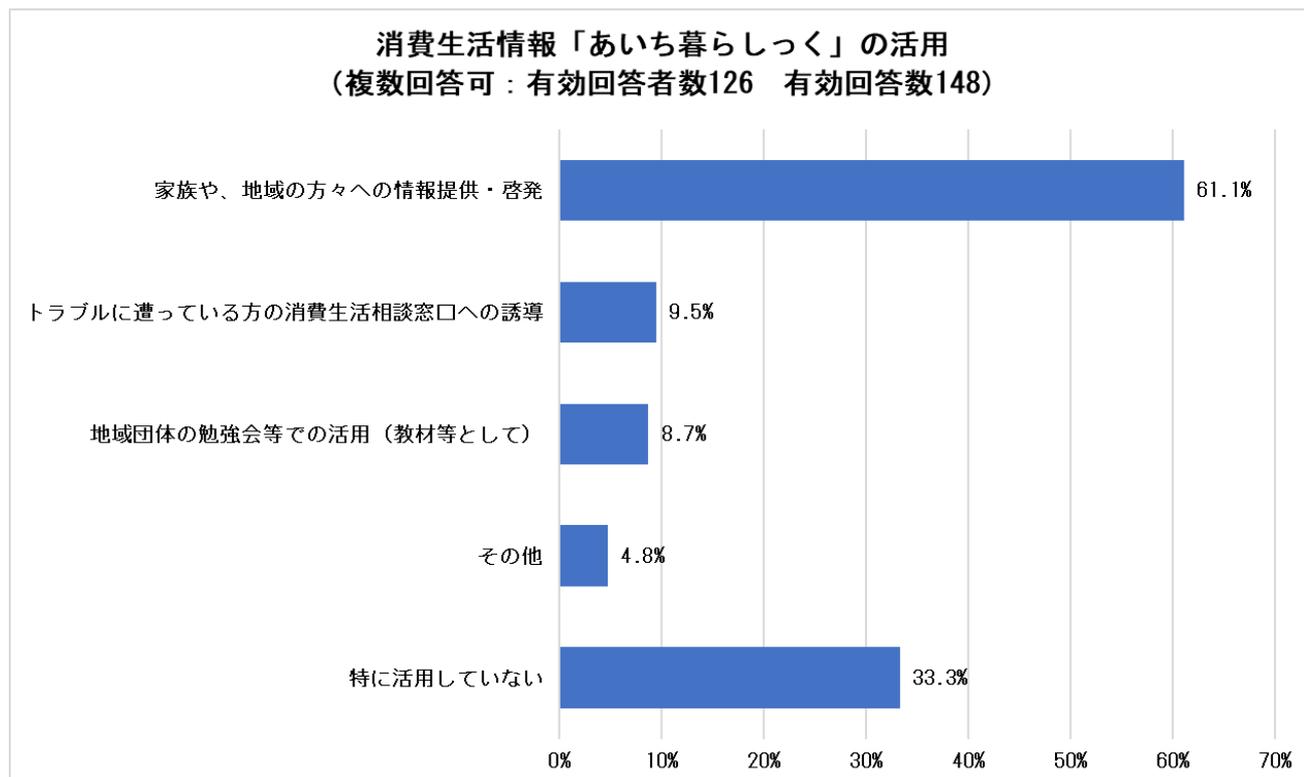
「あまり役に立っていない」理由としては、「周知されていない」、「PR 不足」などが挙げられた。

また、その改善策としては、「新聞、テレビ、ラジオや市町村の広報を活用する」、「SNS 等を積極的に活用する」、「小中学校と連携して周知を図る」などが挙げられた。

問 13 県では消費生活情報「あいち暮らしっく」を年に6回配信し、消費生活モニターの皆様には郵送させていただきますが、どのように御活用いただいていますか。(複数回答可)

<回答結果>

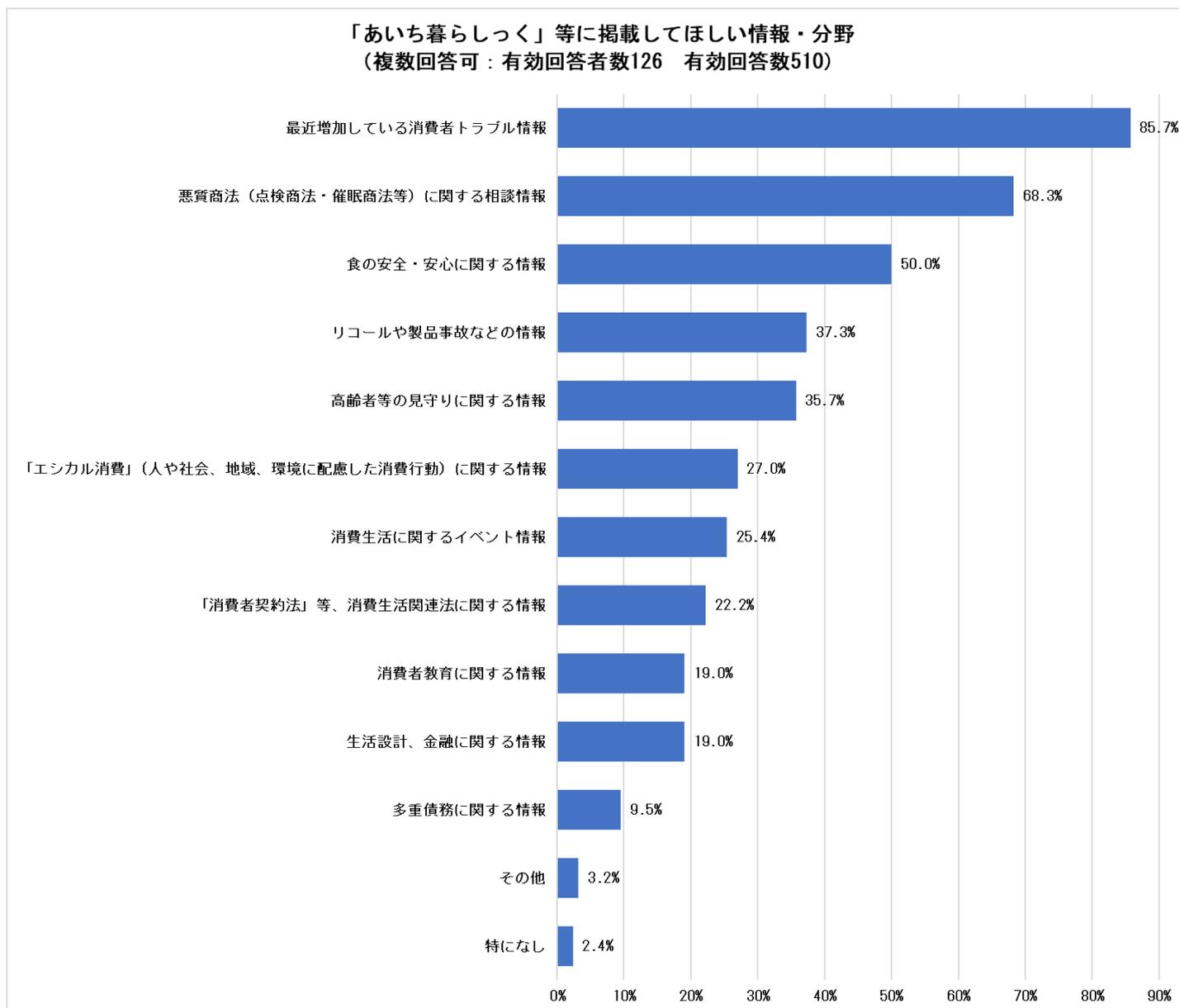
消費生活情報「あいち暮らしっく」について、「家族や地域の方々への情報提供・啓発」が61.1%で最も多く、次いで「トラブルに遭っている方の消費生活相談窓口への誘導」が9.5%、「地域団体の勉強会等での活用（教材等として）」が8.7%の順で、「特に活用していない」は33.3%であった。



問 14 消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は何か。（複数回答可）

<回答結果>

消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は、「最近増加している消費者トラブル情報」が85.7%で最も多く、次いで「悪質商法（点検商法・催眠商法等）に関する相談情報」が68.3%、「食の安全・安心に関する情報」が50.0%の順であった。



問 15 県の消費生活情報ウェブサイト「あいち暮らしWEB」

(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/information/kurassic.html>) 及び、エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」

(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/>)について、どの情報をよく御覧になりますか。(複数回答可)

また、「14 『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない」や、「9 『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」を選択された場合、その理由を記入してください。

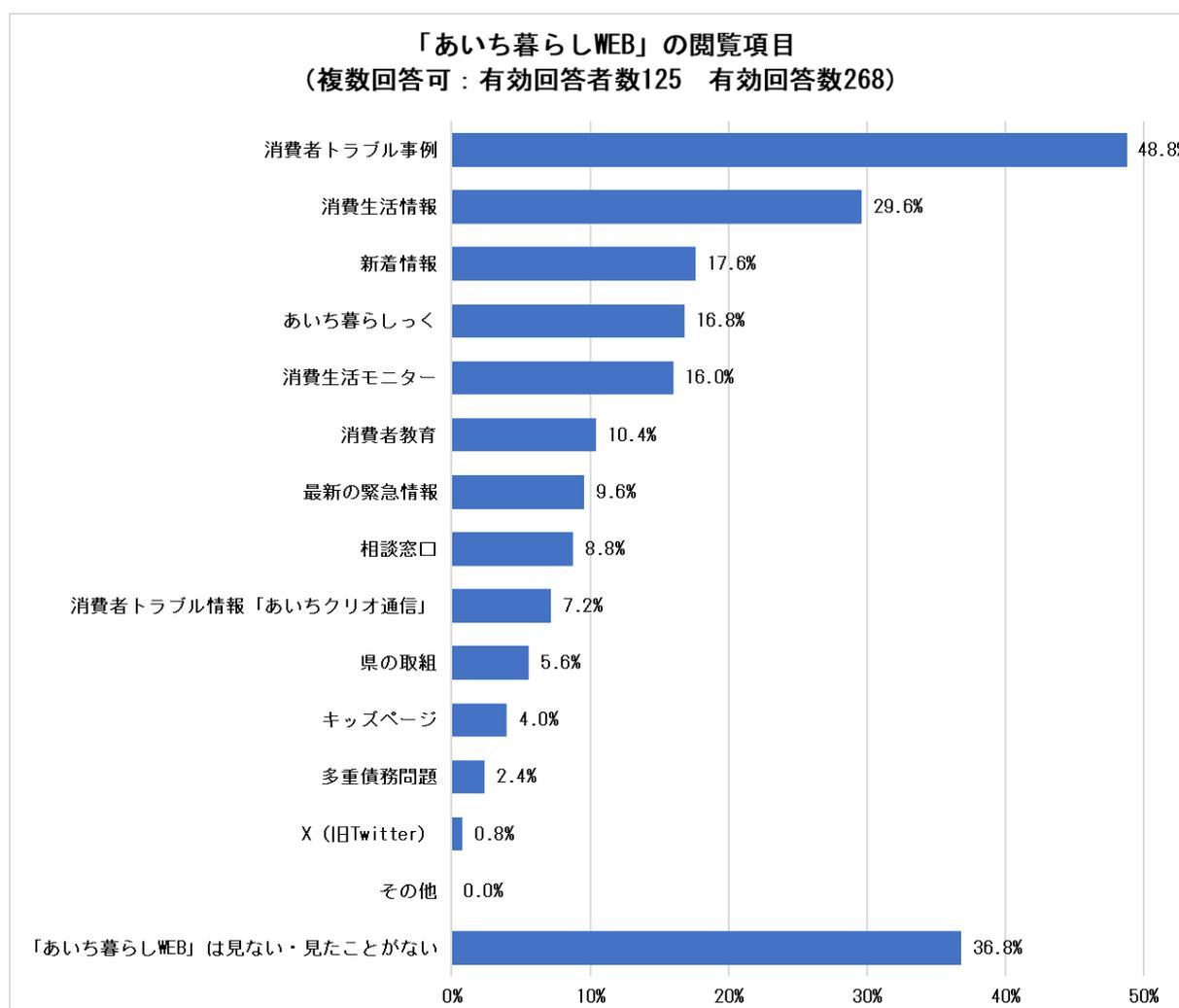
<回答結果>

【県の消費生活情報WEBサイト「あいち暮らしWEB」について】

「あいち暮らしWEB」でよく見られている情報は、「消費者トラブル事例」が48.8%で最も多く、次いで「消費生活情報」が29.6%、「新着情報」が17.6%の順であった。

一方、回答者の36.8%は『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがないと回答した。

『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない理由については、「知らなかった」、「紙で見る方がよい」、「パソコンやスマホに不慣れ」などであった。



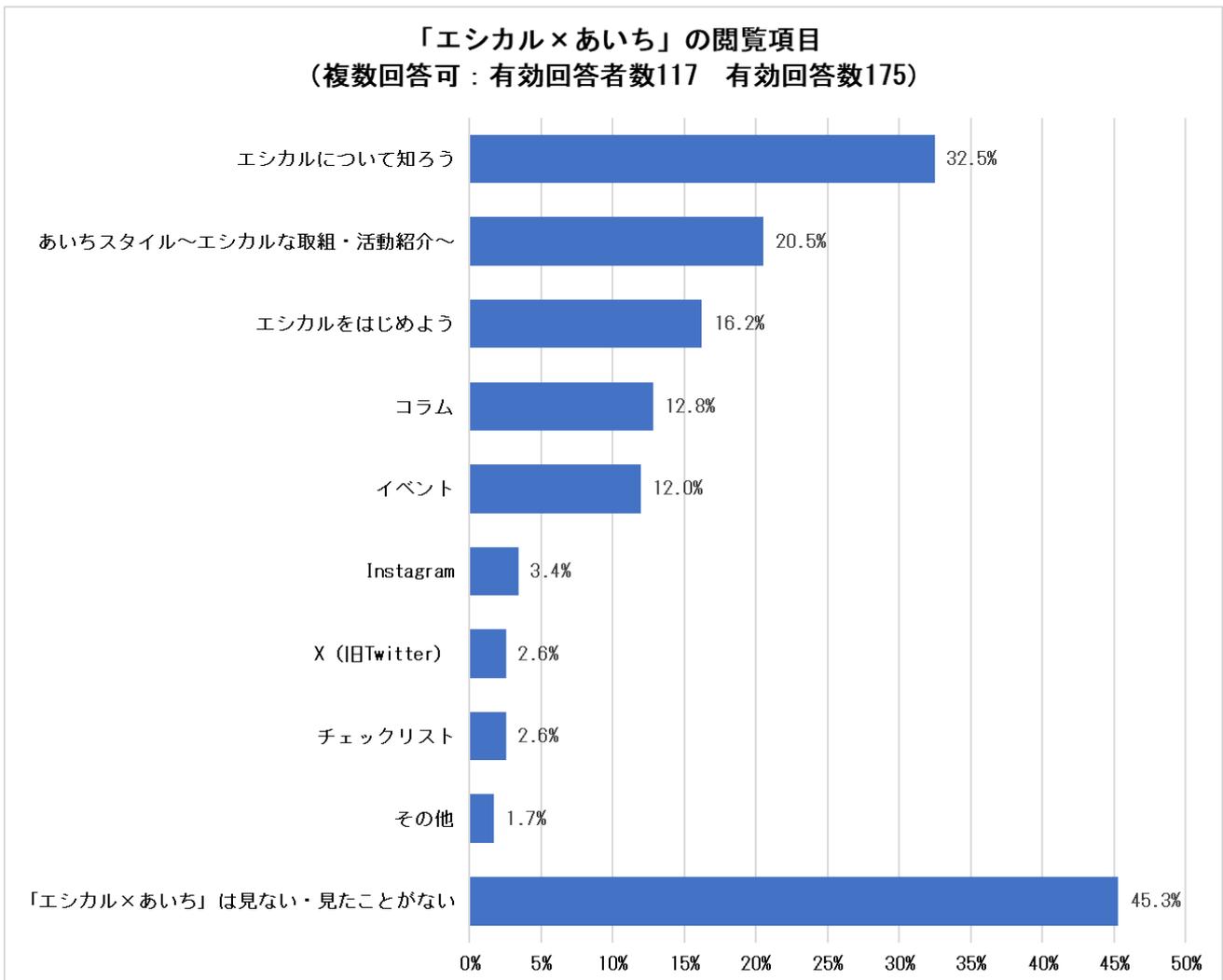
<回答結果>

【エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」について】

「エシカル消費ポータルサイト『エシカル×あいち』」でよく見られている情報は、「エシカルについて知ろう」が32.5%で最も多く、次いで「あいちスタイル～エシカルな取組・活動紹介～」が20.5%、「エシカルをはじめよう」が16.2%の順であった。

一方、回答者の45.3%は『エシカル×あいち』は見ない・見たことがないと回答した。

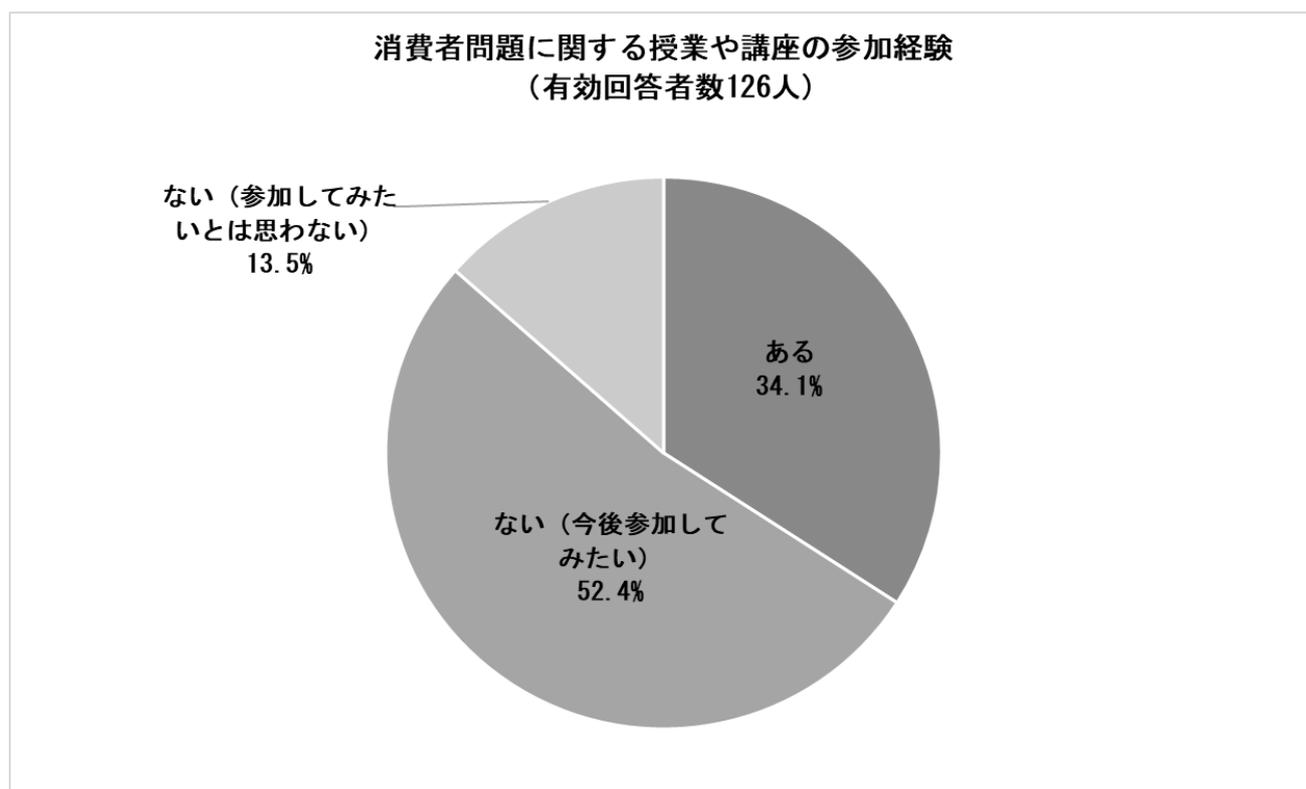
『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない理由については、「知らなかった」、「パソコンで検索してまで見ない」、「関心が低い」などがあつた。



問 16 消費者問題に関する授業を受けたり、講座に参加したことはありますか。また、「3 ない (参加してみたいとは思わない)」を選択された場合、その理由を教えてください。(一つ選択)

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の参加経験は、「ない (今後参加してみたい)」が 52.4%で最も多く、次いで「ある」34.1%、「ない (参加してみたいとは思わない)」13.5%の順であった。

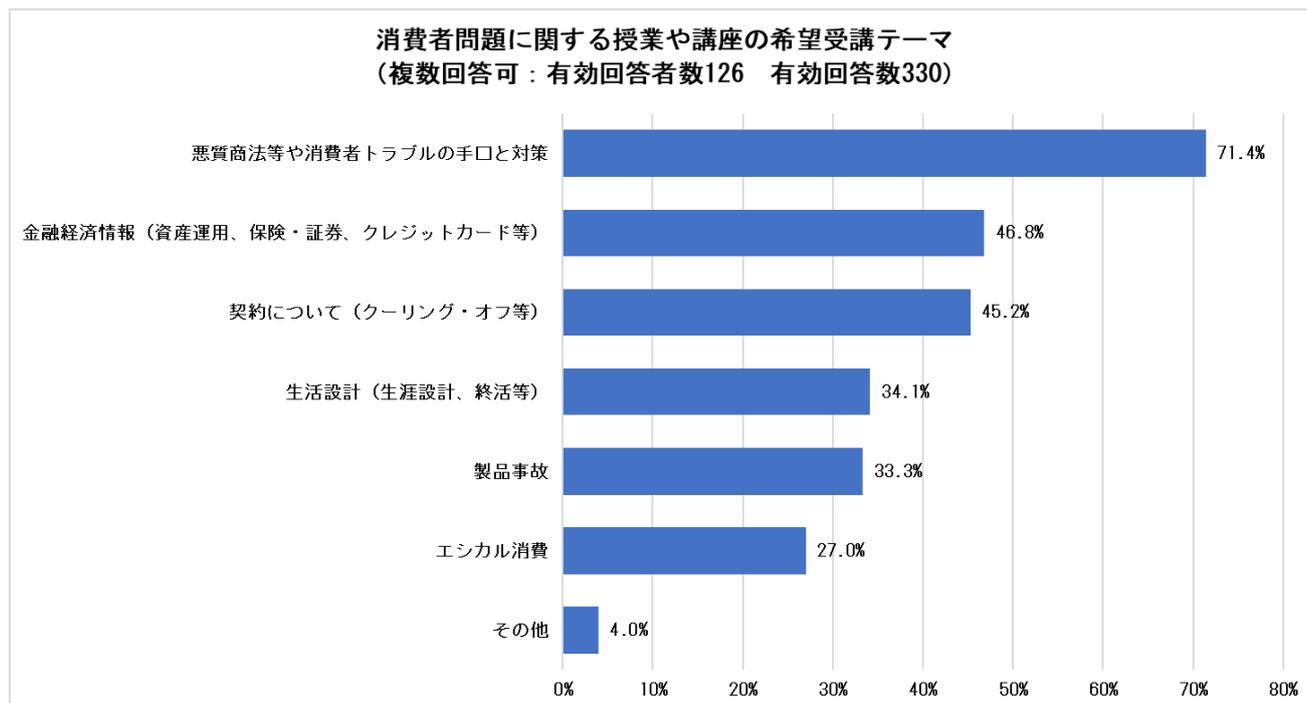


参加してみたいとは思わない理由については、「近隣で講座等が実施されていないため」が5名で最も多く、「内容が難しそうであるため」及び「新型コロナウイルス感染予防のため、多くの人が集まる会場には行かないようにしているため」が2名、「消費者被害の未然防止に有効であるとは思えないため」が1名であった。

問 17 あなたが消費者問題に関する授業や講座を受ける場合、どのようなテーマの受講を希望しますか。(複数回答可)

<回答結果>

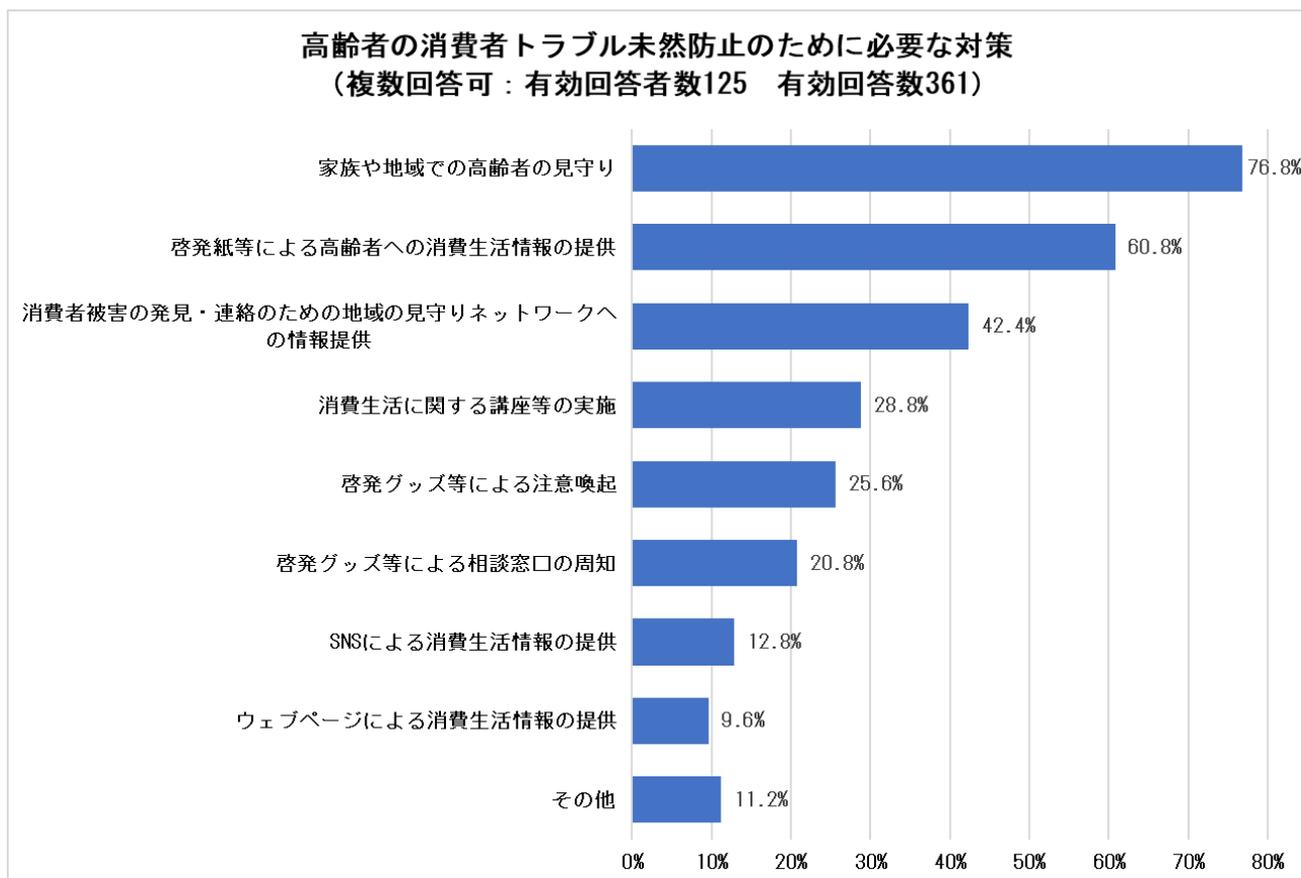
消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマは、「悪質商法等や消費者トラブルの手口と対策」が71.4%で最も多く、次いで「金融経済情報（資産運用、保険・証券、クレジットカード等）」が46.8%、「契約について（クーリング・オフ等）」が45.2%の順であった。



問 18 高齢者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答可)

<回答結果>

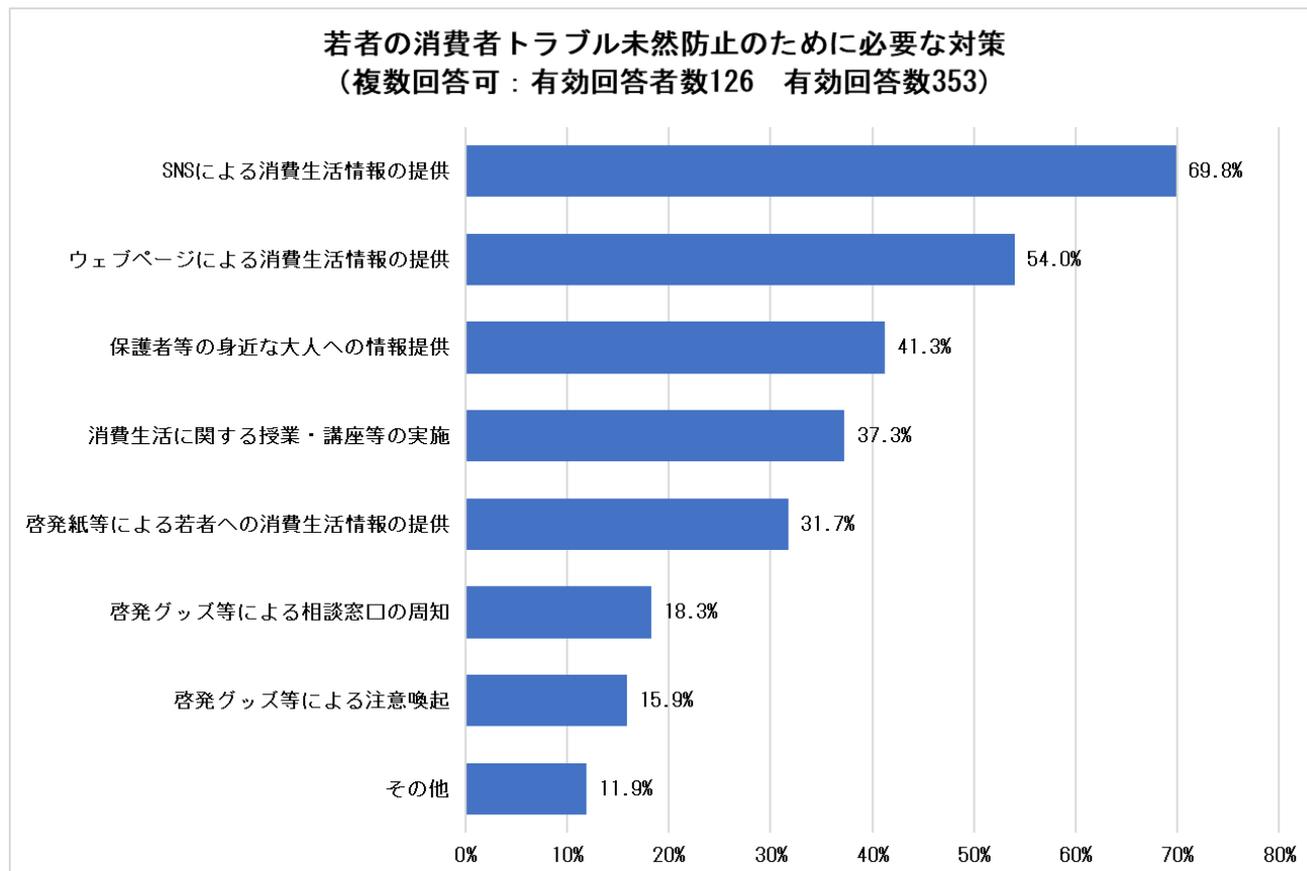
高齢者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「家族や地域での高齢者の見守り」が76.8%で最も多く、次いで「啓発紙等による高齢者への消費生活情報の提供」が60.8%、「消費者被害の発見・連絡のための地域の見守りネットワークへの情報提供」が42.4%の順であった。



問 19 若者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答可)

<回答結果>

若者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「SNSによる消費生活情報の提供」が69.8%で最も多く、次いで「ウェブページによる消費生活情報の提供」が54.0%、「保護者等の身近な大人への情報提供」が41.3%の順であった。

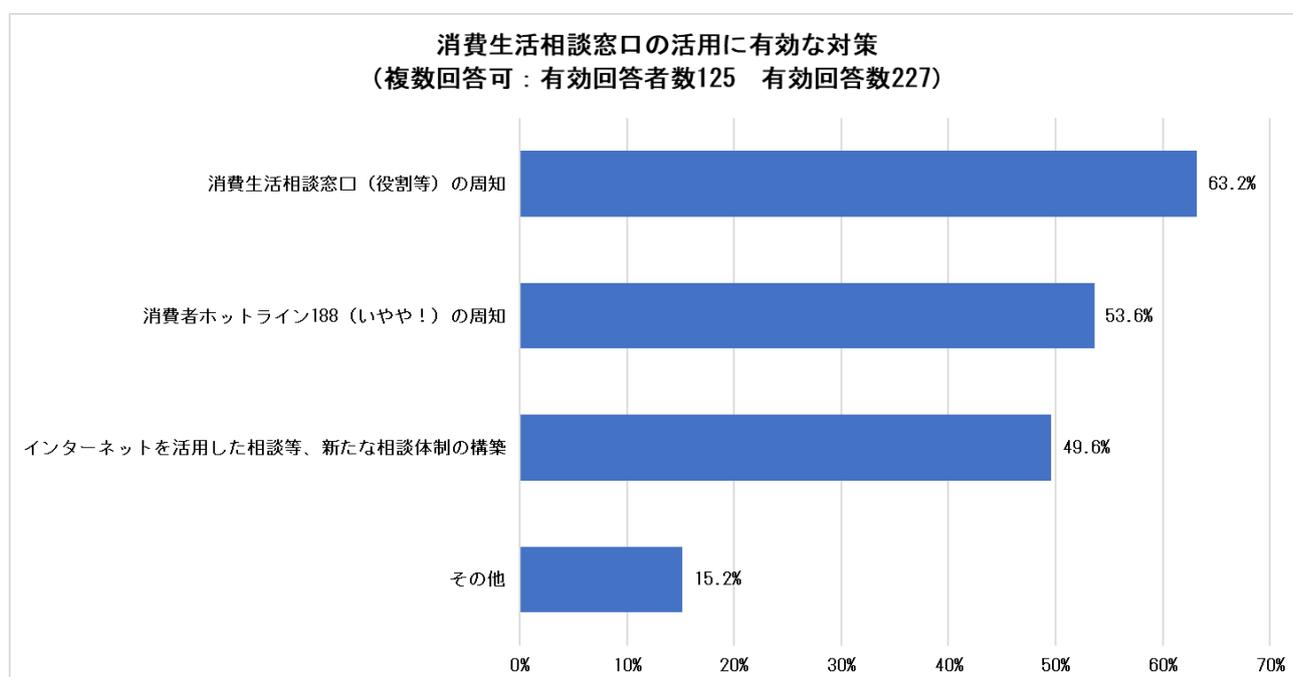


問 20 消費者被害に遭われた方のうち、より多くの方が消費生活相談窓口へ相談するためには、どのような対策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

「消費生活相談窓口（役割等）の周知」が63.2%で最も多く、次いで「消費者ホットライン188（いやや!）の周知」が53.6%、「インターネットを活用した相談等、新たな相談体制の構築」が49.6%の順となった。

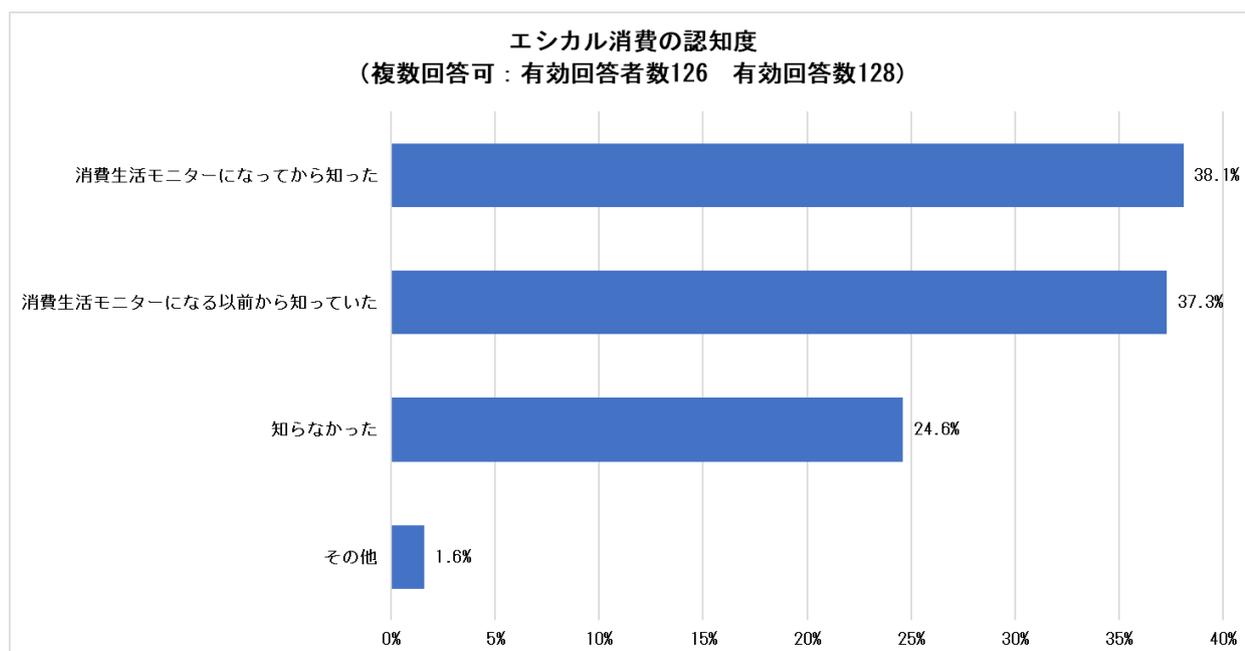
「その他」の回答には、「YouTube やテレビ・ラジオ CM、新聞」、「Facebook や Instagram 等の SNS」、「地域の回覧板や公民館への掲示」、「電車やバス、スーパーマーケット等でのポスター掲示」などがあつた。



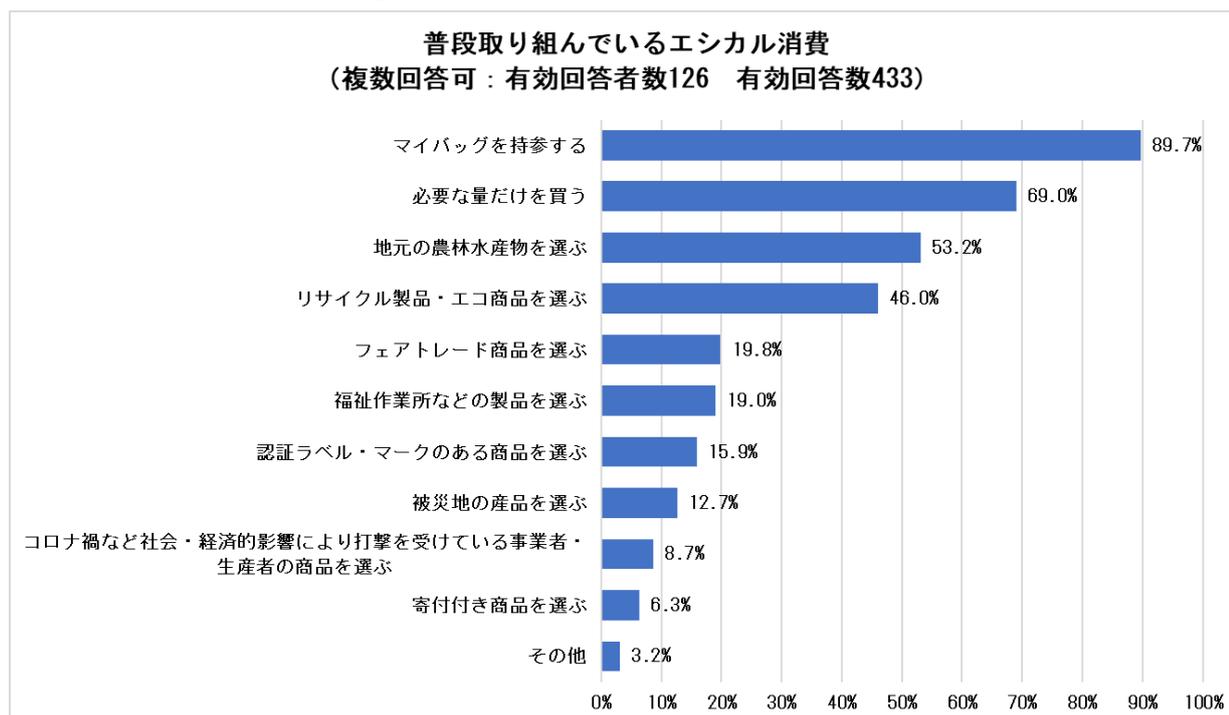
問 21 「エシカル消費」について御存知ですか。また、普段どのようなエシカル消費に取り組んでいますか。「その他」を選んだ場合は（ ）の中にその内容も記入してください。（複数回答可）

<回答結果>

エシカル消費の認知度については、「消費生活モニターになってから知った」が 38.1%で最も多く、次いで「消費生活モニターになる以前から知っていた」が 37.3%、「知らなかった」が 24.6%の順であった。



また、普段取り組んでいるエシカル消費については、「マイバッグを持参する」が 89.7%で最も多く、次いで「必要な量だけを買う」が 69.0%、「地元の農林水産物を選ぶ」が 53.2%の順であった。

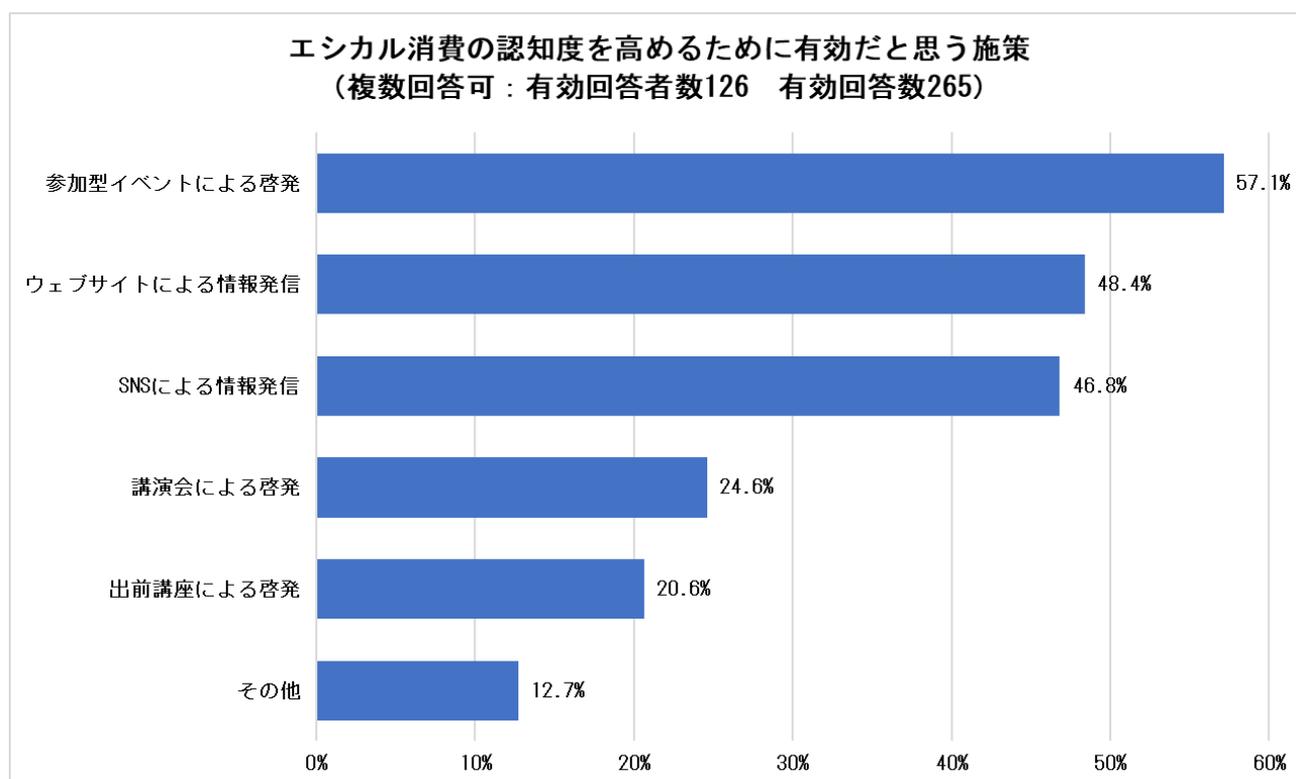


問 22 エシカル消費の認知度を高めるために、どのような施策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度を高めるために有効な施策は、「参加体験型イベントによる啓発」が 57.1%で最も多く、次いで「ウェブサイトによる情報発信」が 48.4%、「SNS による情報発信」が 46.8%の順であった。

「その他」の回答には、「テレビCM」、「エシカル商品に対するの POP 掲示」などがあつた。

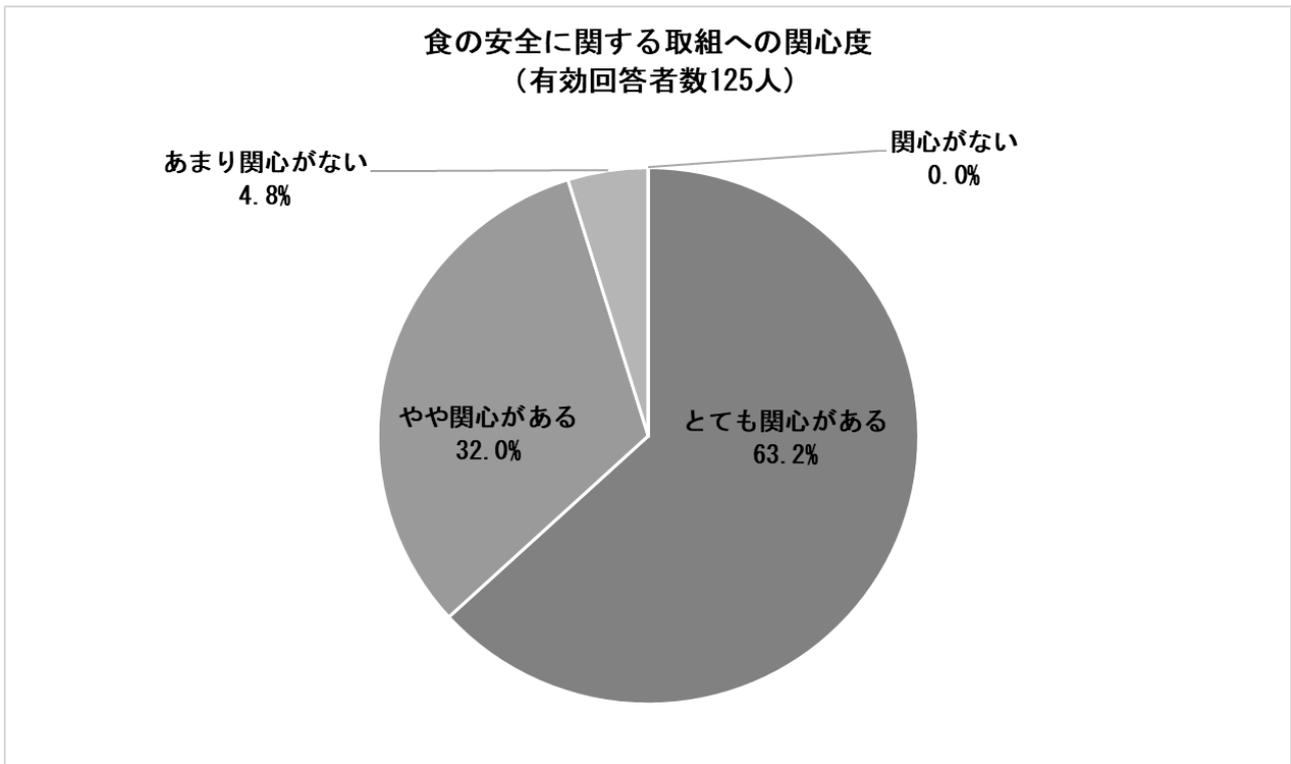


3 食の安全・安心について

問 23 食の安全に関する取組について、どの程度関心を持っていますか。(1つ選択)

<回答結果>

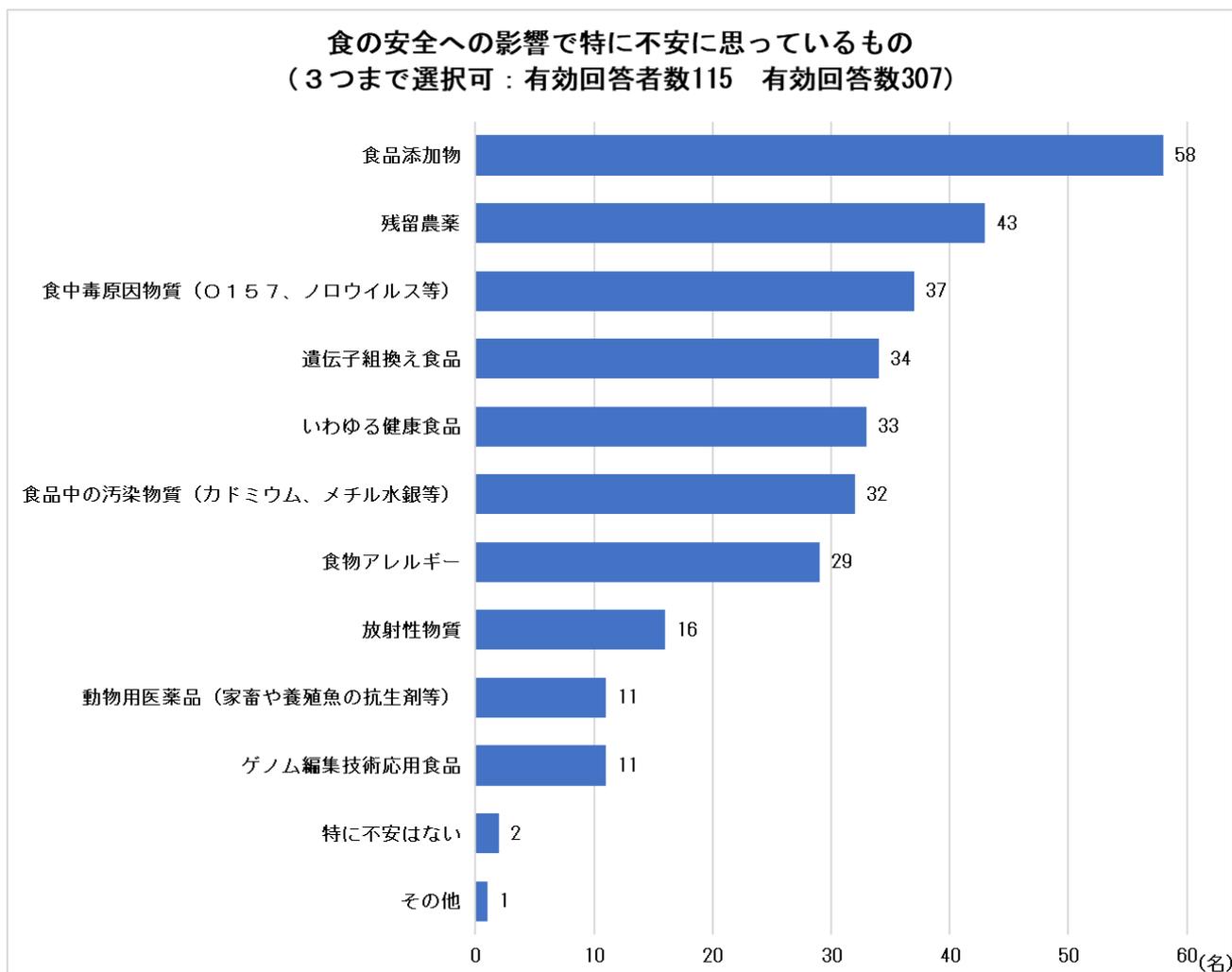
食の安全に対する取組については、「とても関心がある」が 63.2%で最も多く、次いで「やや関心がある」が 32.0%、「あまり関心がない」が 4.8%の順であった。



問 24 食の安全に影響を及ぼすものとして、特に不安に思っているものは何ですか。(3つまで選択)

<回答結果>

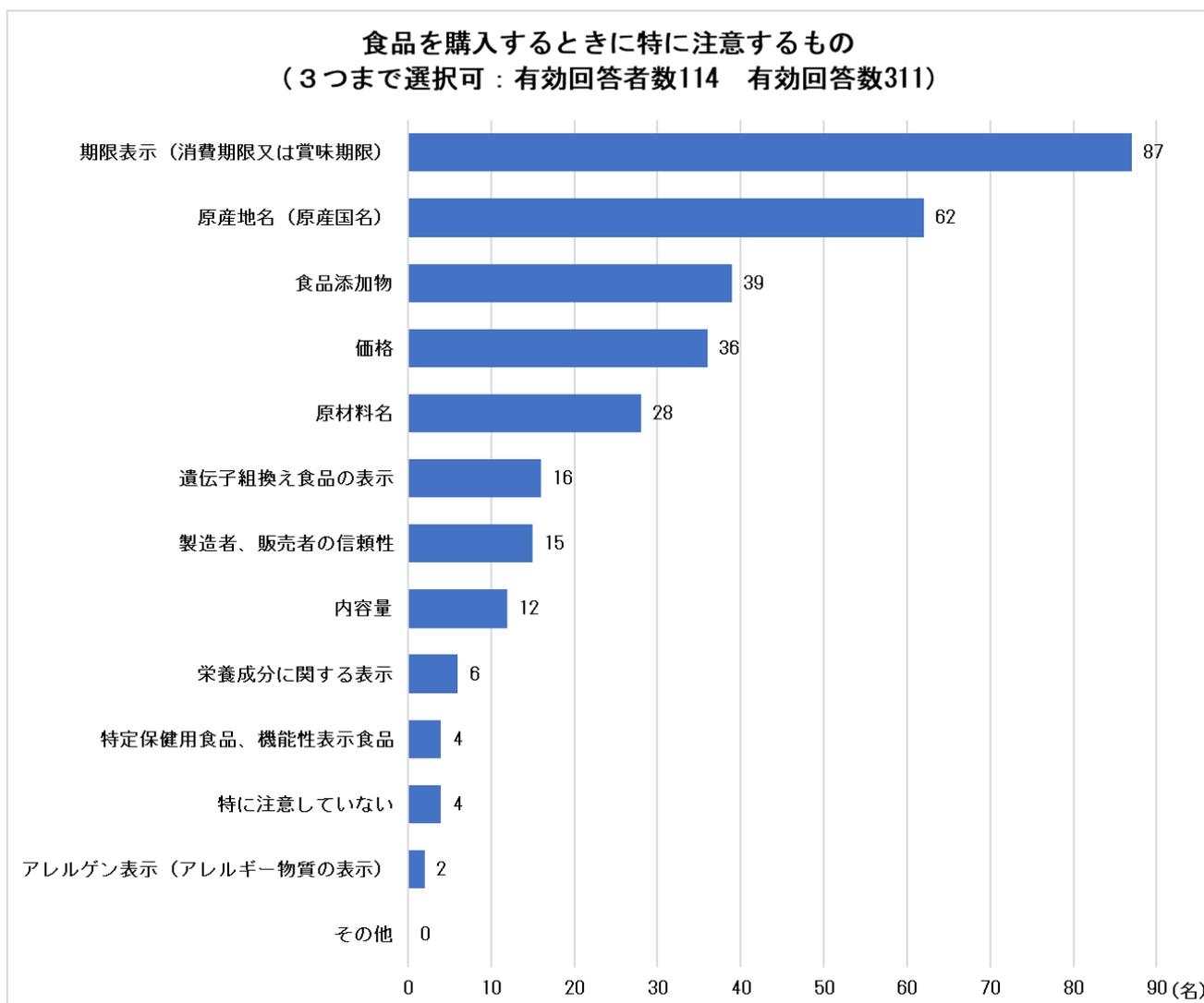
食の安全に影響を及ぼすものとして特に不安に思っているものについて、「食品添加物」が58名で最も多く、次いで「残留農薬」が43名、「食中毒原因物質（O157、ノロウイルス等）」が37名の順であった。



問 25 食品を購入するとき、注意していることは何ですか。(3つまで選択)

<回答結果>

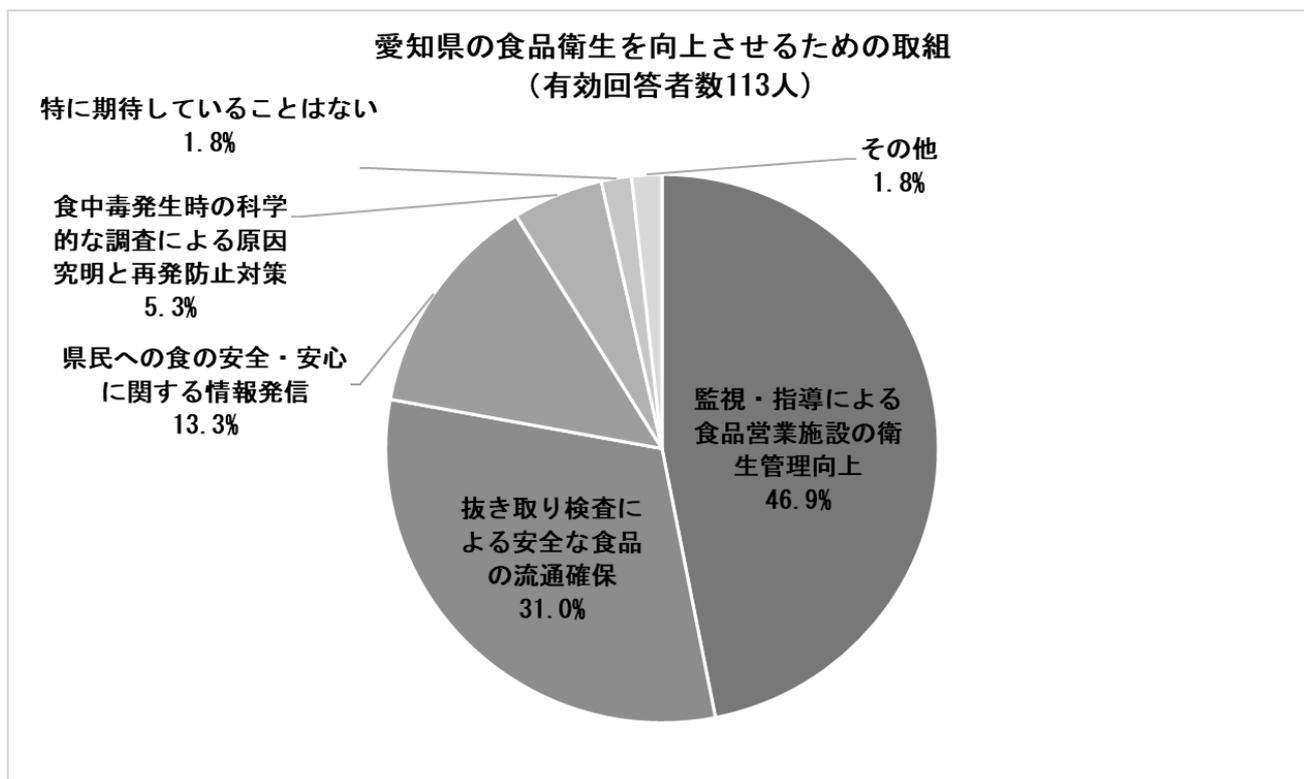
食品を購入するとき特に注意するものについて、「期限表示（消費期限又は賞味期限）」が 87 名で最も多く、次いで、「原産地名（原産国名）」が 62 名、「食品添加物」が 39 名の順であった。



問 26 愛知県が行う食品衛生を向上させるための取組みとして、最も重要と思うことは何ですか。
(1つ選択)

<回答結果>

愛知県の食品衛生を向上させる取組として最も重要と考えているものは、「監視・指導による食品営業施設の衛生管理向上」が46.9%で最も多く、次いで「抜き取り検査による安全な食品の流通確保」が31.0%、「県民への食の安全・安心に関する情報発信」が13.3%の順であった。

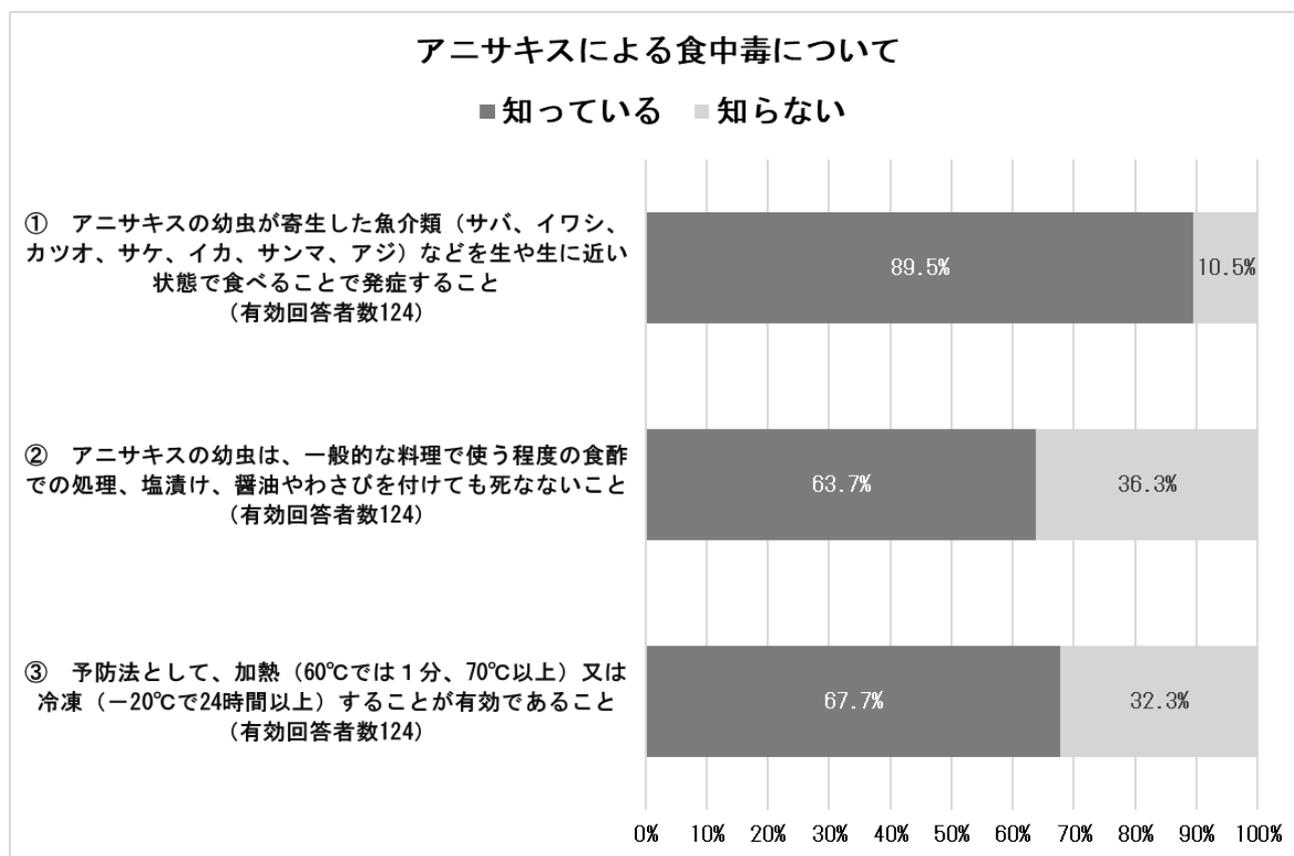


問 27 近年多発するアニサキスによる食中毒について、次のことを知っていますか。(各1つ選択)

- ① アニサキスの幼虫が寄生した魚介類（サバ、イワシ、カツオ、サケ、イカ、サンマ、アジ）などを生や生に近い状態で食べることで発症すること
- ② アニサキスの幼虫は、一般的な料理で使う程度の食酢での処理、塩漬、醤油やわさびを付けても死なないこと
- ③ 予防法として、加熱（60℃では1分、70℃以上）又は冷凍（-20℃で24時間以上）することが有効であること

<回答結果>

アニサキスによる食中毒に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 89.5%、② 63.7%、③ 67.7%であった。

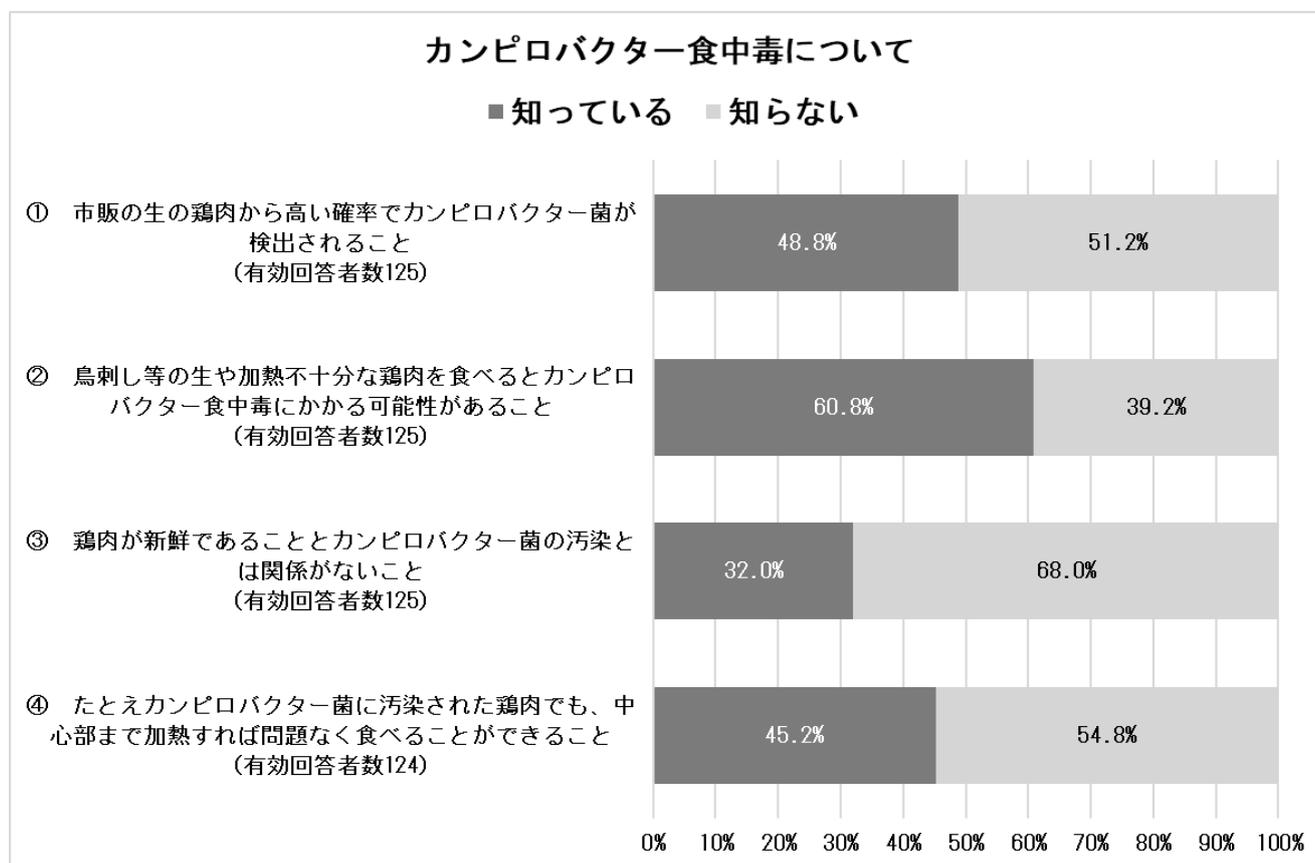


問 28 近年多発するカンピロバクター食中毒について、次のことを知っていますか。(各1つ選択)

- ① 市販の生の鶏肉から高い確率でカンピロバクター菌が検出されること
- ② 鳥刺し等の生や加熱不十分な鶏肉を食べるとカンピロバクター食中毒にかかる可能性があること
- ③ 鶏肉が新鮮であることとカンピロバクター菌の汚染とは関係がないこと
- ④ たとえカンピロバクター菌に汚染された鶏肉でも、中心部まで加熱すれば問題なく食べることができること

<回答結果>

カンピロバクター食中毒に関わる4つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 48.8%、② 60.8%、③ 32.0%、④ 45.2%であった。

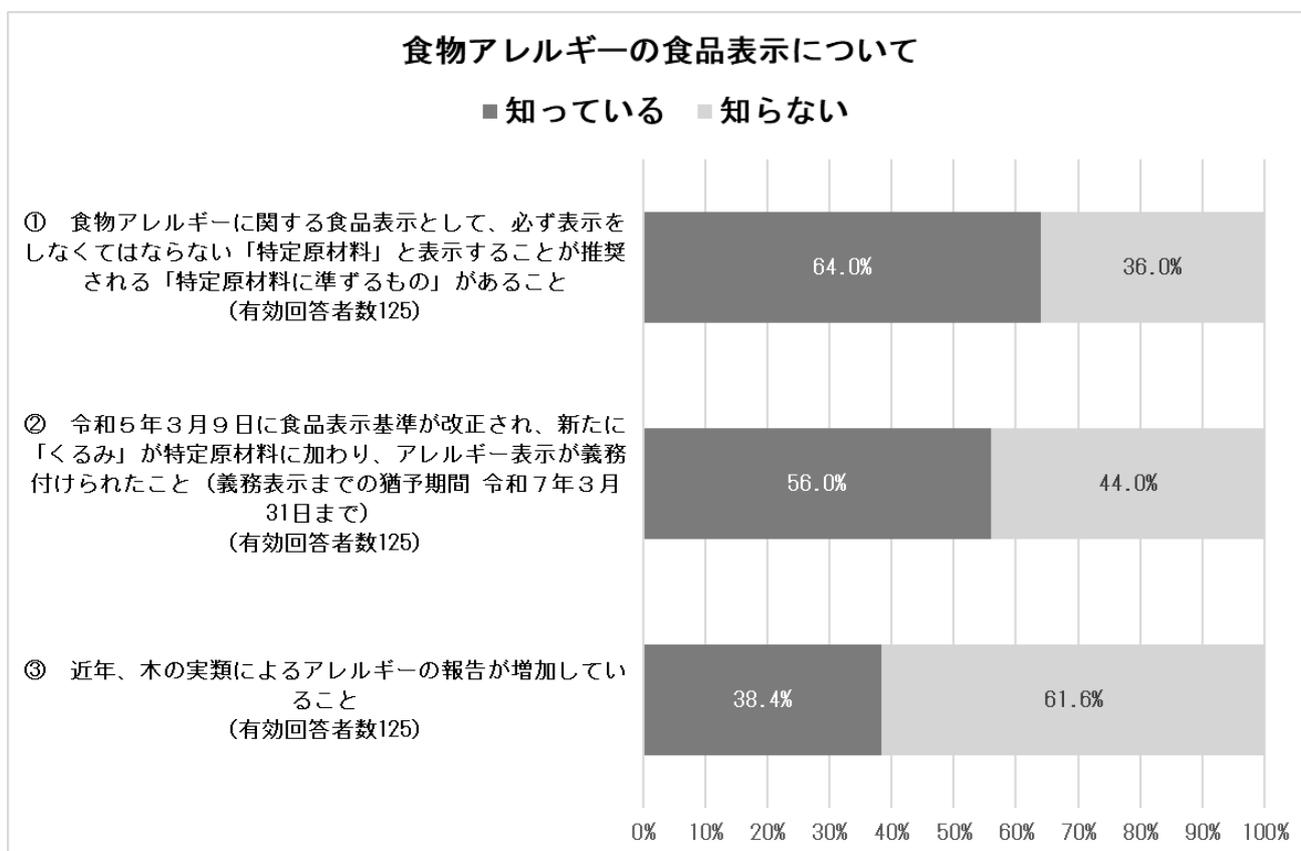


問 29 食品表示制度のうち食物アレルギーについて、次のことを知っていますか。(各1つ選択)

- ① 食物アレルギーに関する食品表示として、必ず表示をしなければならない「特定原材料」と表示することが推奨される「特定原材料に準ずるもの」があること
- ② 令和5年3月9日に食品表示基準が改正され、新たに「くるみ」が特定原材料に加わり、アレルギー表示が義務付けられたこと(義務表示までの猶予期間 令和7年3月31日まで)
- ③ 近年、木の実類によるアレルギーの報告が増加していること

<回答結果>

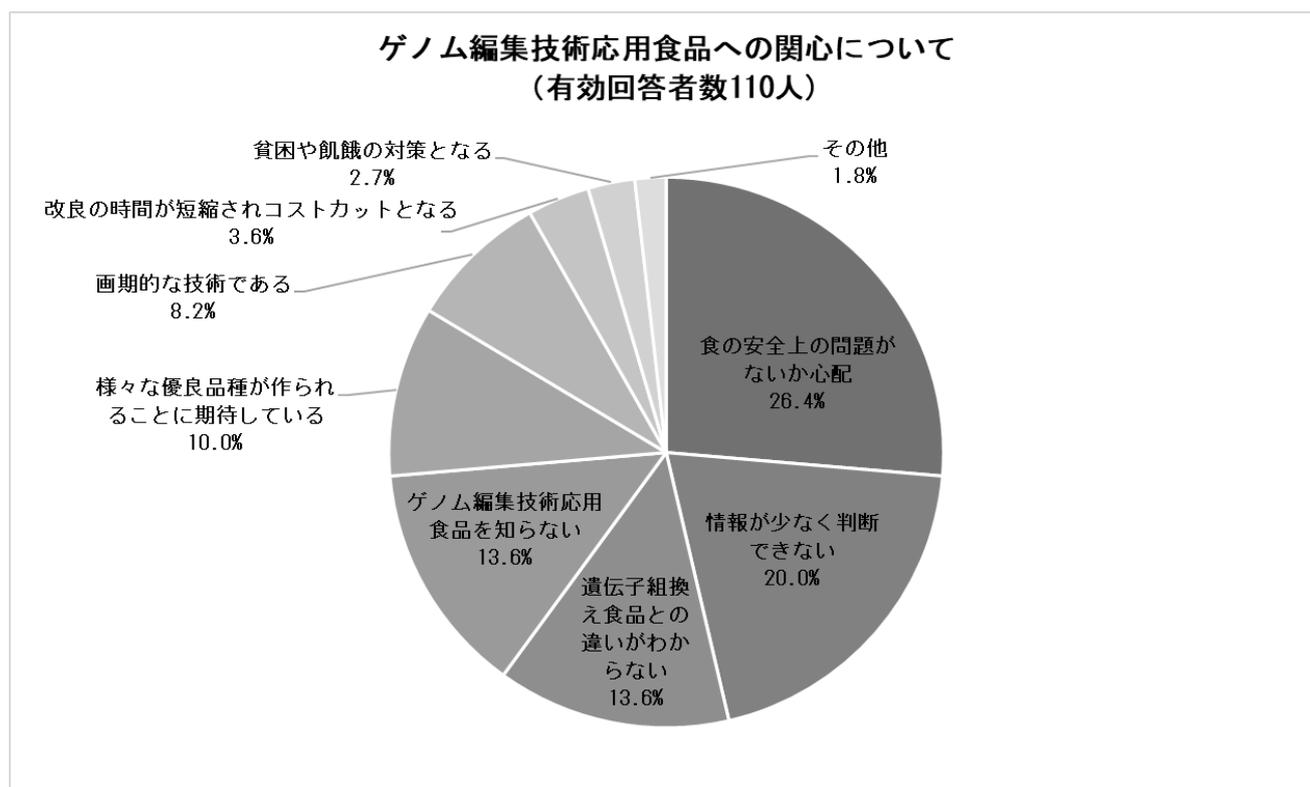
食物アレルギーに関する食品表示に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 64.0%、② 56.0%、③ 38.4%であった。



問 30 近年、ゲノム編集技術を用いた食品開発が進んでおり、2020年12月には、国内で初めて、ゲノム編集技術応用食品（GABA 高蓄積トマト）の届出及び情報提供書が提出されました。ゲノム編集技術応用食品について、どのようなイメージを持っていますか。（1つ選択）

<回答結果>

ゲノム編集技術応用食品について、どのようなイメージを持っているかについては、「食の安全上の問題がないか心配」が26.4%で最も多く、次いで「情報が少なく判断できない」が20.0%、「遺伝子組換え食品との違いがわからない」及び「ゲノム編集技術応用食品を知らない」が13.6%の順であった。



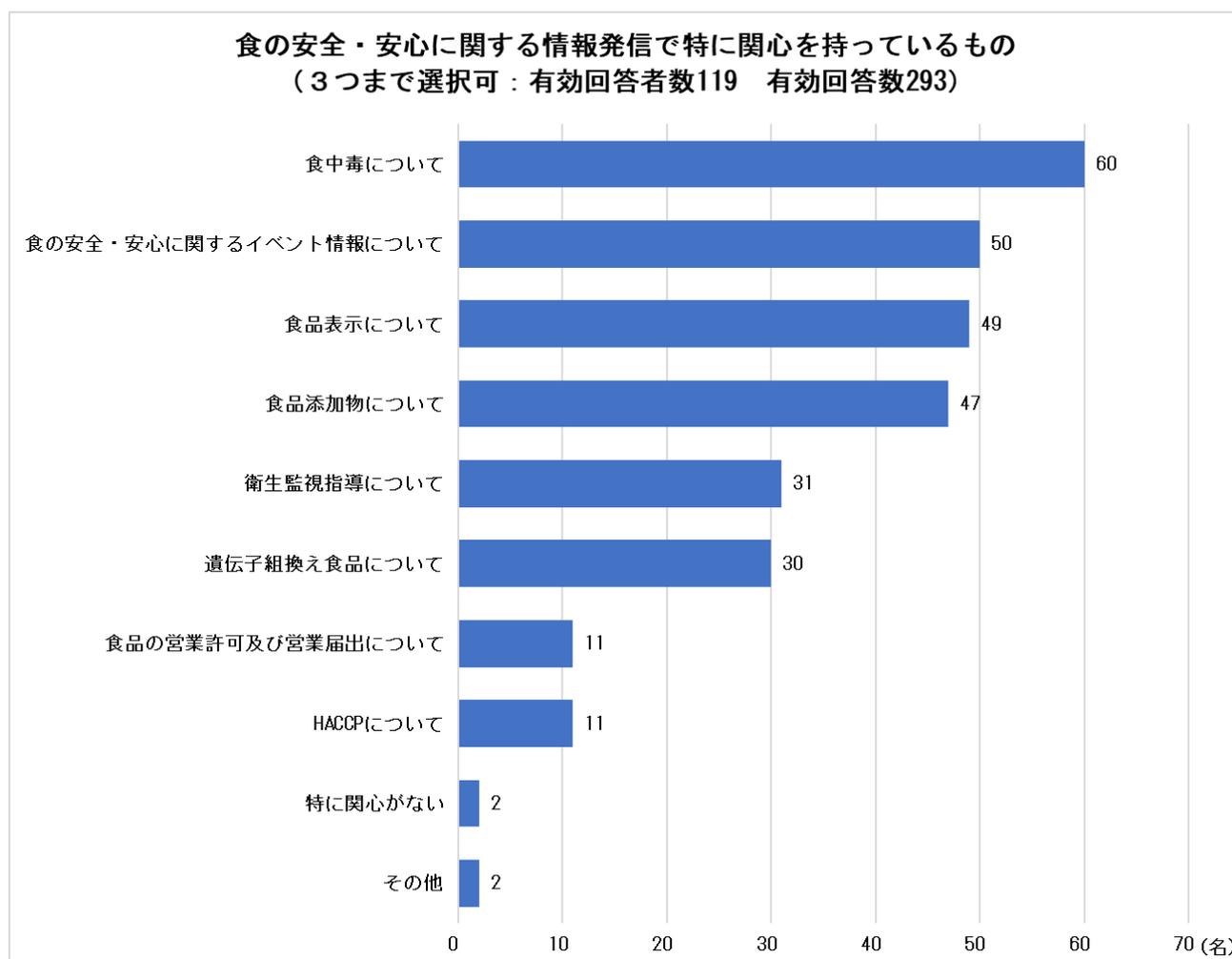
問 31 愛知県では下記のホームページや Facebook 等で食の安全・安心に関する情報発信を行っています。以下のうち、どのような内容を期待しますか。(3つまで選択)

【ホームページ・Facebook】

- 食の安全・安心情報サービス /愛知県 HP
<https://www.pref.aichi.jp/eisei/anzen.html>
- 愛知県食の安全・安心情報サービス /Facebook
<https://www.facebook.com/aichishokuhin>

<回答結果>

愛知県の食の安全・安心に関する情報発信で、特に興味を持っているものについては、「食中毒について」が 60 名で最も多く、次いで「食の安全・安心に関するイベント情報について」が 50 名、「食品表示について」が 49 名の順であった。



問 32 食の安全・安心に関する意見・要望等について、自由に記入してください。

食の安全・安心に関する意見・要望等を自由に記載していただきました。ここでは、そのうち一部を抜粋して紹介します。

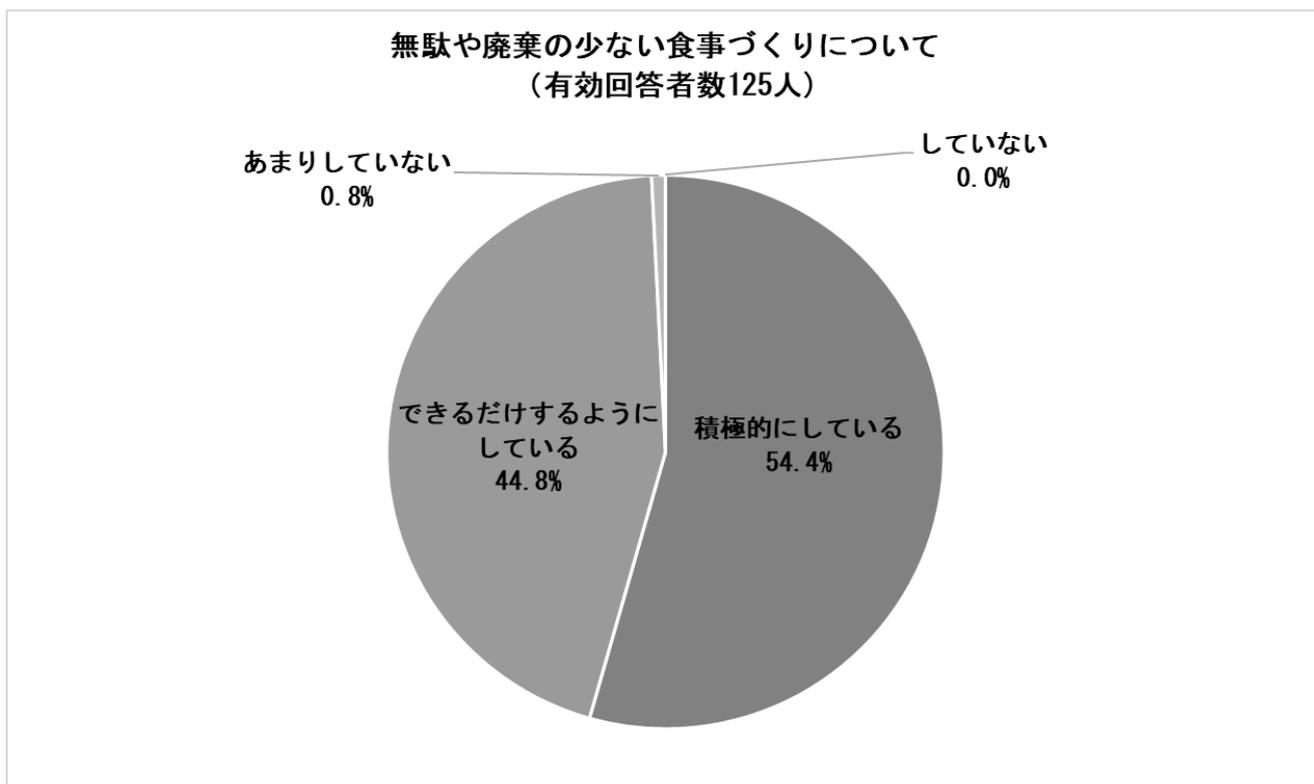
- ・日本は食品添加物が多数許可され、もっと厳しく欧米のように対応すべきで、また、スピード感が大事だと思います。疑わしきものは使わせないという食の安全・安心の基本の徹底をお願いいたします。
- ・食品添加物＝悪というイメージを払拭するような公平で正しい情報発信をしてほしい。食品添加物の必要性についてきちんと理解した上で商品選択ができる消費者教育を行ってほしい。
- ・物価高騰に伴い、外国の食品を多く見かけるが、農薬、添加物などが不安である。そういった食品の抜き取り検査などをして安全・安心を県民に情報提供してほしい。
- ・いろいろな食品がある中で、より安全で安心できるものを選んで食べたいと思います。原材料や食品添加物についての表記はしっかりみたいと思います。
- ・ゲノム編集技術を用いた食品等の情報が消費者にはあまりよく知られていないと思います。積極的に安全性等の発信情報をよろしくお願いします。
- ・海外原産品のトレサビリティに不安がある。安心できる表示の仕組みの改善を期待したい。国内でも、産地偽装が散見されるので、管理の徹底を求めたい。
- ・衛生管理を指導してほしい。時に高温多湿になる期間は流通過程における温度管理の徹底を指導してほしい。
- ・製造者・販売者の両者ともに安全・安心の意識が無ければ食への不安が高まるため、監視を続けてほしい。
- ・「正しく心配する」ことができるよう正確な情報の発信を期待します。
- ・食の安全安心の情報をメーカー、小売店にもっと提供すべきだと思う。
- ・一般的な知識を伝えるのも大切と思いますが、具体的な事例・被害例の情報発信をしてほしい。
- ・気づいたことや心配なことを気軽に（レベルの低いものでも）相談や投稿できるとうれしい。
- ・野菜は出来るだけ国内産、できるだけ愛知県産、できるだけスーパーよりも産直など生産者に近いものを買うように心掛けています。食肉でも国内産は値上がりしましたが国内産を買うようにしています。

4 食生活について

問 33 あなたは、食べ残しなど無駄や廃棄の少ない食事づくりを行っていますか。(1つ選択)

<回答結果>

無駄や廃棄の少ない食事づくりについて、「積極的にしている」が 54.4%で最も多く、次いで「できるだけするようにしている」が 44.8%、「あまりしていない」が 0.8%の順であった。

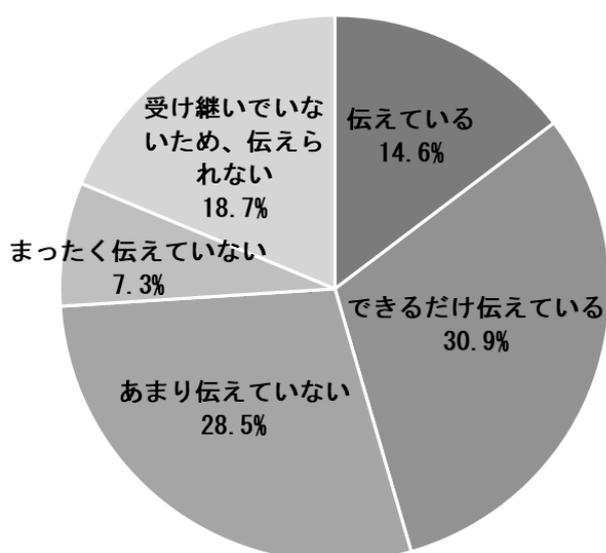


問 34 あなたは、家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えていますか。（1つ選択）

<回答結果>

家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えているかについて、「できるだけ伝えている」が30.9%で最も多く、次いで「あまり伝えていない」が28.5%、「受け継いでいないため、伝えられない」が18.7%、「伝えている」が14.6%、「まったく伝えていない」が7.3%の順であった。

郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について
(有効回答者数123人)

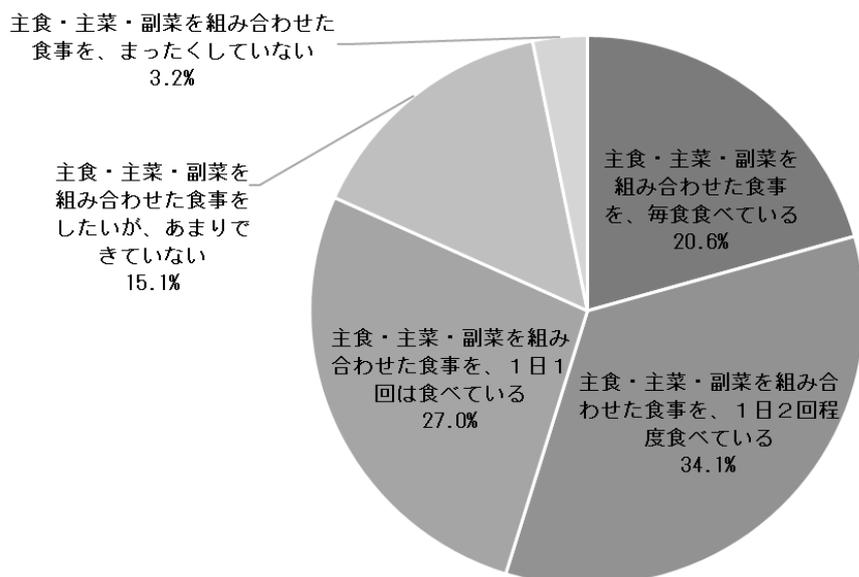


問 35 あなたは、栄養バランスに配慮し、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしていますか。
(1つ選択)

<回答結果>

栄養バランスのとれた食事について、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日2回程度食べている」が34.1%で最も多く、次いで「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日1回は食べている」が27.0%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、毎食食べている」が20.6%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしたいが、あまりできていない」が15.1%の順であった。

栄養バランスのとれた食事について
(有効回答者数126人)

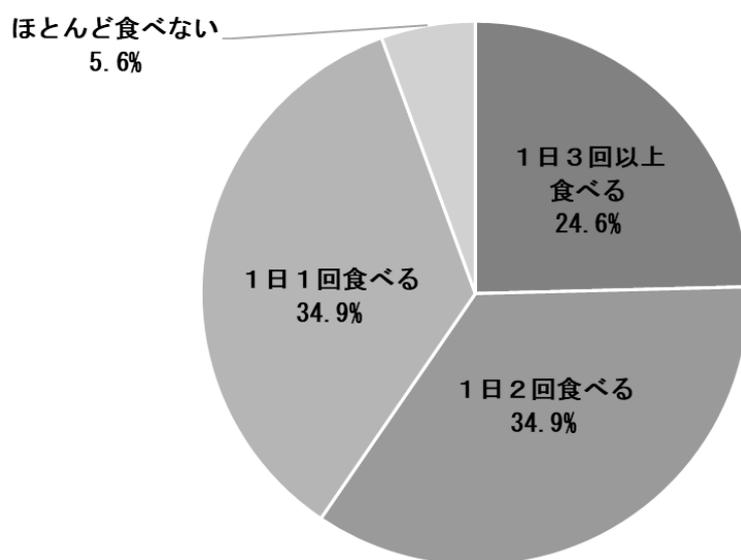


問 36 あなたは、野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度はどのくらいですか。（1つ選択）

<回答結果>

野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について、「1日2回食べる」及び「1日1回食べる」が34.9%で最も多く、次いで「1日3回以上食べる」が24.6%の順であった。

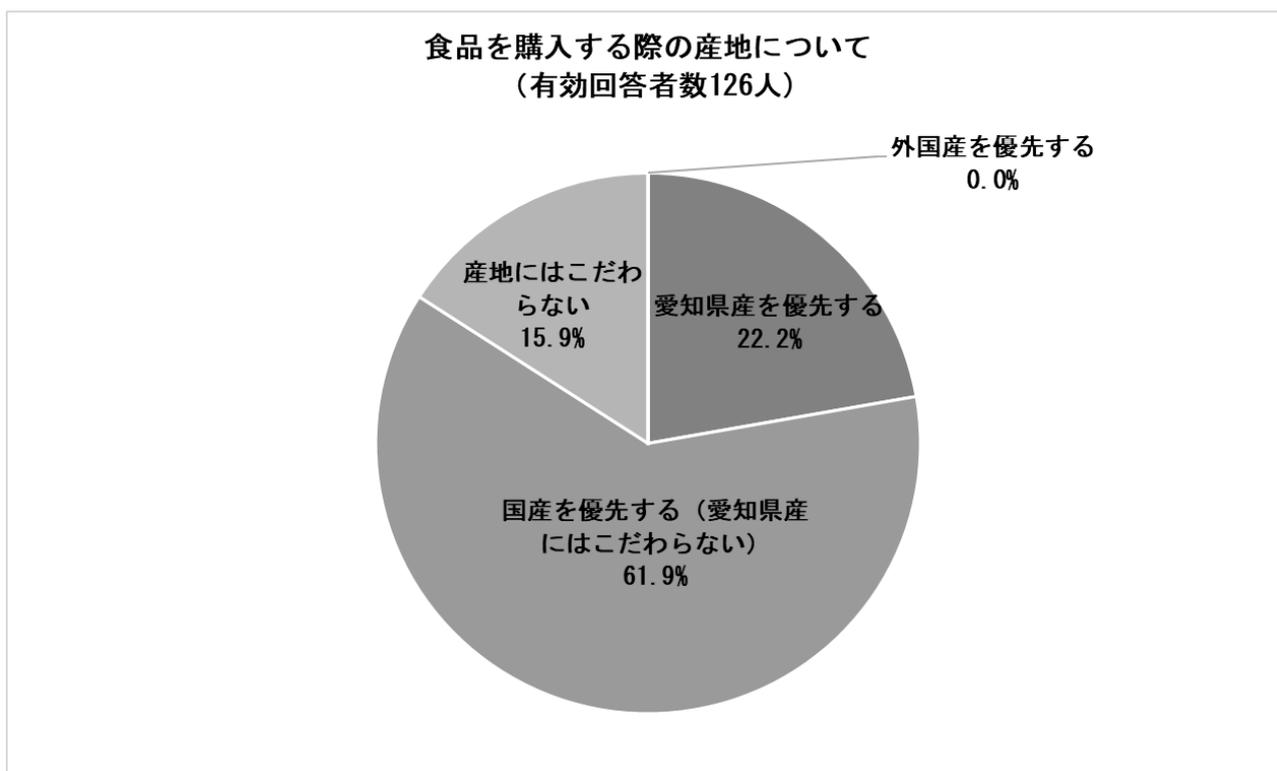
野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について
（有効回答者数126人）



問 37 あなたは、食品を購入する際に、どのような産地を優先して購入しますか。(1つ選択)

<回答結果>

食品を購入する際の産地について、「国産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」が 61.9%で最も多く、次いで「愛知県産を優先する」が 22.2%、「産地にはこだわらない」が 15.9%の順であった。



消費生活モニターアンケート
メインテーマ：「なりすましメールやSMSによるフィッシング」
調査報告

2023年11月発行

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6163（ダイヤルイン）